

令和元年度（2019年度）

事業報告書

自 平成31年4月 1日

至 令和 2年3月31日

<本編>	
I. 法人の概要	1
II. 事業の概要	9
1. 学園全体	9
2. 森ノ宮医療大学	14
3. 森ノ宮医療学園専門学校	39
4. 森ノ宮医療学園ランゲージスクール	48
5. 森ノ宮医療学園附属診療所	52
6. 森ノ宮医療学園京都施術所	62
7. 森ノ宮医療学園出版部	64
III. 財務の概要	66

学校法人森ノ宮医療学園
大阪市東成区中本4丁目1番8号

本報告書は、平成 21 年 2 月 17 日付日本公認会計士協会「学校法人における事業報告書の記載例について」を参考に構成した。

I. 法人の概要

1. 建学の精神

臨床に優れ、かつ豊かな人間性に裏打ちされた医療人を育成する

2. 学校法人の沿革

昭和48年(1973)	3月	厚生省より鍼灸師養成施設の認可を受ける
	4月	大阪鍼灸専門学校開校(大阪市東成区)
昭和52年(1977)	4月	学校法人「森ノ宮学園」となり、あわせて専修学校医療専門課程となる
昭和57年(1982)	4月	附属診療所、附属鍼灸施術所落成
昭和60年(1985)	4月	卒業教育雑誌「鍼灸OSAKA」創刊
昭和63年(1988)	5月	鍼灸師養成に関わる法律により修業年限3年となる
	11月	中国、大連市中医院と学術研究提携を結ぶ
平成3年(1991)	7月	米国、Santa Barbara College of Oriental Medicineと教育提携を結ぶ
平成4年(1992)	7月	中国、南京中医薬大学と学術研究提携を結ぶ
平成7年(1995)	3月	この年の卒業生から文部省告示による専門士(医療専門課程)の称号を授与
平成8年(1996)	6月	中国江蘇省陰市中医院と交流開始
平成12年(2000)	4月	柔道整復学科開設、法人名を学校法人森ノ宮医療学園、学校名を森ノ宮医療学園専門学校と改称
平成13年(2001)	1月	森ノ宮医療学園専門学校本校舎増改築工事完成、同校3階に「はりきゅうミュージアム」開設
平成14年(2002)	1月	「はりきゅうミュージアム」にて代田文誌特別展開催
	4月	森ノ宮医療学園専門学校緑橋校舎増設
平成15年(2003)	3月	柔道整復学科第1期生卒業 創立30周年記念式典 校歌「みどりの風」制定
	4月	全日制アドバンスコース開講
	7月	アネックス校舎(第1期)完成
平成16年(2004)	3月	中国江蘇省江陰市中医院と学術・教育協定締結
平成17年(2005)	2月	医療法人淳良会関目病院と教育提携を結ぶ
平成19年(2007)	4月	森ノ宮医療大学開学(大阪市住之江区)
平成20年(2008)	2月	第1回おおさか優良緑化賞・大阪府知事賞受賞
	11月	森ノ宮医療大学コスモキャンパス第2校地取得
平成22年(2010)	1月	森ノ宮医療学園附属みどりの風クリニック、みどりの風鍼灸院開院
	3月	森ノ宮医療学園アネックス校舎完成
	4月	地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪府立急性期・総合医療センターと括連携協定締結
	6月	森ノ宮医療大学メディカフェ(学生食堂)オープン
平成23年(2011)	4月	森ノ宮医療大学看護学科設置 西棟(ウエストポート)竣工 森ノ宮医療大学大学院修士課程保健医療学研究科設置
平成24年(2012)	2月	森ノ宮医療大学鍼灸学科スポーツ特修コース設置認可
平成25年(2013)	3月	森ノ宮医療大学 公益財団法人日本高等教育評価機構による機関別認証評価受審の結果、「適合」との判定 森ノ宮医療学園専門学校 文部科学大臣より「職業実践専門課程」の認定

平成26年(2014)	1月	大阪市住之江区と包括連携協定締結
平成26年(2014)	6月	大阪府高槻市教育委員会と包括連携協定締結
平成26年(2014)	11月	大阪府吹田市教育委員会と包括連携協定締結
平成27年(2015)	2月	相愛大学と包括連携協定締結
平成28年(2016)	3月	森ノ宮医療学園専門学校が大阪社会体育専門学校と包括連携協定締結
平成28年(2016)	4月	森ノ宮医療大学に助産学専攻を開設。保健医療学部臨床検査学科、作業療法学科を開設
平成28年(2016)	5月	森ノ宮医療大学新棟(キャナルポート)竣工、新体育館、新図書館併設
	6月	森ノ宮医療大学講堂(コスモホール)竣工
	9月	森ノ宮医療学園専門学校がフロリダ・カレッジ・オブ・インテグレイティブメディスン(FCIM)と姉妹校提携
	11月	森ノ宮医療大学開設10周年記念式典挙行
	12月	森ノ宮医療大学コスモキャンパス西側隣接地の校地(大学設置基準上の空地)購入
平成29年(2017)	4月	森ノ宮医療大学 禁煙宣言
	11月	森ノ宮医療学園 京都施術所(ERP下鴨南治療院)開業
	12月	森ノ宮医療大学 西校地南側を運動施設(グリーンスクエア)に整備
平成30年(2018)	1月	森ノ宮医療大学 公益財団法人日本生命済生会附属日生病院(現:日本生命病院)と相互連携協定締結
	3月	森ノ宮医療大学 オーストラリア、カーティン大学(Curtin University)と連携協定締結
	7月	森ノ宮医療学園専門学校が大阪市東成区と包括連携協定締結
平成31年(2019)	2月	森ノ宮医療学園ランゲージスクールが大阪府から各種学校として認可される。
令和2年(2020)	2月	森ノ宮医療大学 さくら棟校舎竣工
令和2年(2020)	4月	森ノ宮医療大学 保健医療学部放射線学科を開設、大学院保健医療学研究科看護学専攻(修士課程)を設置、開設

3. 設置する学校・学部・学科等

法人の名称		学校法人森ノ宮医療学園		事務所の所在地		大阪府大阪市東成区 中本4丁目1番8号	
設置する学校	学校名	学部・学科名等	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	備考
	森ノ宮 医療大学	大学院保健医療学研究科 保健医療学専攻（修士課程）	2	6	0	12	開設年度 平成23年度
		大学院保健医療学研究科医 療科学専攻（博士後期課程）	3	2	0	4	開設年度 平成30年度
		保健医療学部鍼灸学科	4	60	0	240	開設年度 平成19年度
		保健医療学部理学療法学科	4	70	0	260	
		保健医療学部看護学科	4	90	0	340	開設年度 平成23年度
		保健医療学部臨床検査学科	4	60	0	240	開設年度 平成28年度
		保健医療学部作業療法学科	4	40	0	160	開設年度 平成28年度
		保健医療学部臨床工学科	4	60	0	120	開設年度 平成30年度
		助産学専攻科	1	10	0	10	開設年度 平成28年度
森ノ宮 医療学園専 門学校	医療専門課程鍼灸学科	3	120	0	390	開設年度 昭和48年度	
	医療専門課程柔道整復学科	3	120	0	360	開設年度 平成12年度	
森ノ宮 医療学園 ランゲージ スクール	日本語学科進学 1年コース	1	20	0	20	開設年度 平成31年度	
	日本語学科進学 1年6か月コース	1.5	20	0	40		
	日本語学科進学 2年コース	2	20	0	40		

4. 施設等の状況

学校名（所在地）	校地現有面積	校舎現有面積	備考
森ノ宮医療大学・ 大学院 (大阪市住之江区南港北1丁目39番1号)	32,936.65	m ² 7,193.15 (東棟)	令和元年度に桜棟 (5,422.25 m ²)完成
		603.63 (食堂棟)	
		4,523.74 (西棟)	
		10,939.69 (南棟)	
		30.64 (スポーツ施設管 理事務所)	
		5,422.25 (桜棟)	
森ノ宮医療大学 計	32,936.65	28,713.10	
森ノ宮医療学園専門学校 (大阪市東成区中本4丁目1番8号)	1,560.22	5,253.67 (本校舎)	
森ノ宮医療学園専門学校 (大阪市東成区中本3丁目15番11号)	530.56	936.74 (緑橋校舎)	
森ノ宮医療学園専門学校(大阪市東成区中 本2丁目5番41号)	1,329.40	1,454.19 (アネックス校舎)	
森ノ宮医療学園専門学校 計	3,420.18	7,644.60	
森ノ宮医療学園ランゲージスクール (大阪市住之江区南港北1丁目28番9 号)		673.31	
森ノ宮医療学園ランゲージスクール		673.31	
大学・専門学校 合計	36,176.83	37,031.01	

5. 役員の概要

(2019年4月1日現在)

・定員数：理事8～14名、監事2～3名 ・現員数：理事13名、監事2名

役職	氏名	役員就任年月日	寄附行為上の選任区分	備考
理事長	清水尚道	平成22年11月	7-1-1	森ノ宮医療学園専門学校校長
理事	荻原俊男	平成23年4月	7-1-1	森ノ宮医療大学学長
理事	花谷幸比古	平成9年5月	7-1-2	
理事	三木完二	平成9年5月	7-1-2	
理事	尾崎朋文	平成25年4月	7-1-2	
理事	小島賢久	平成25年4月	7-1-2	
理事	安田実	平成11年5月	7-1-3	
理事	中田敬吾	平成14年5月	7-1-3	
理事	吉川徹	平成25年7月	7-1-3	
理事	金尾顕郎	平成27年4月	7-1-3	
理事	青木元邦	平成27年4月	7-1-3	
理事	松浦成昭	平成31年4月	7-1-3	
理事	笠山宗正	平成31年4月	7-1-3	
監事	日根野文三	平成11年5月		
監事	小林由幸	平成14年10月		

6. 評議員の概要

(2019年4月1日現在)

・定員数17～29名 ・現員数：27名

氏名	寄附行為上の選任区分
田畑京美	25-1-1
山下 仁	25-1-1
村上生美	25-1-1
鍋田智之	25-1-1
青木元邦	25-1-1
吉岡敏治	25-1-1
三木屋良輔	25-1-1
松下美穂	25-1-1
花谷幸比古	25-1-2
三木完二	25-1-2
房前素徳	25-1-2
浜田 暁	25-1-2
清水尚道	25-1-2

尾崎朋文	25-1-2
奥田 功	25-1-3
河内 明	25-1-3
鈴木 紘	25-1-3
下條喜信	25-1-3
築山房乃	25-1-3
森 優也	25-1-3
小島賢久	25-1-3
葉山直史	25-1-3
鈴木 信	25-1-3
中田 一	25-1-3
赤丸敏行	25-1-3
吉村弥須子	25-1-3
石塚充弘	25-1-3

7. 教職員の概要

(令和元年5月1日現在)

●大学

区分	人数
本務教員	122
本務職員	47

(学校基本調査に基づく)

●専門学校

区分	人数
本務教員	23
本務職員	20

(学校基本調査に基づく)

●法人本部、その他事業所

区分	人数
本務職員	26

8. その他

●主な加盟団体

	加盟団体	部門	主管部署	備考
1	公益社団法人 私学経営研究会	法	法人本部	学校関係
2	NPO法人 学校経理研究会	法	法人本部	
3	全国専修学校各種学校総連合会	専	事務局	
4	一般社団法人 大阪府専修学校各種学校連合会	専	事務局	
5	公益財団法人 日本高等教育評価機構	大	総務室	
6	都市圏高等教育懇談会	大	総務室	
7	日本私立大学協会	大	総務室	
8	日本私立大学協会関西支部	大	総務室	
9	西日本私立大学振興協議会	大	学長室	
10	大阪府私立大学連絡会	大	総務室	
11	特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪	大	教務室	
12	一般財団法人 全国私立大学教職課程協会	大	教務室	
13	阪神地区私立大学教職課程研究連絡協議会	大	教務室	
14	広域大学連携事業	大	教務室	
15	関西地区FD連絡協議会	大	学長室	
16	関西学生就職指導研究会	大	学生支援室	
17	実験動物施設協議会	大	事務局	
18	関西生産性本部	大	事務局	
19	学校経営品質向上研究会	大	事務局	
20	日本アロマコーディネーター協会	専	事務局	

21	公益社団法人 東洋療法学校協会	専	鍼灸学科	鍼灸関係
22	公益社団法人 全日本鍼灸学会	共/大関	鍼灸学科	
23	公益社団法人 日本鍼灸師会	大	鍼灸学科	
24	公益社団法人 大阪府鍼灸師会	大	鍼灸学科	
25	一般社団法人 メディカル・フィットネス協会	大	鍼灸学科	
26	鍼灸学系大学協議会	大	鍼灸学科	
27	一般社団法人 全国リハビリテーション学校協議会	大	理学療法学科 作業療法学科	理学療法 作業療法 関係
28	一般社団法人 近畿リハビリテーション学校協議会	大	理学療法学科 作業療法学科	
29	一般社団法人 日本私立看護系大学協会	大	看護学科	看護関係
30	一般社団法人 日本看護系大学協議会	大	看護学科	
31	公益社団法人 全国助産師教育協議会	大	看護学科 助産学専攻科	
32	一般社団法人 全国保健師教育機関協議会	大	看護学科	
33	公益財団法人大阪府看護協会	大	看護学科	
34	一般社団法人 日本臨床検査学教育協議会	大	臨床検査学科	臨床検査 関係
35	一般社団法人大阪府臨床工学技士会	大	臨床工学科	臨床工学 関係
36	公益社団法人 全国柔道整復学校協会	専	柔道整復学科	柔道整復 関係
37	公益社団法人 日本柔道整復接骨医学会	専	柔道整復学科	
38	私立大学図書館協会	大	図書館	図書館 関係
39	日本看護図書館協会	大	図書館	
40	一般社団法人 日本温泉気候物理学医学会	大	図書館	
41	経絡治療学会	大	図書館	
42	社団法人大阪市防火管理協会	専	事務局	広報関係 地域関連
43	東成防火協力会	専	事務局	
44	東成防犯協会	専	事務局	
45	中本連合中本第一町会	専	事務局	
46	中本社会福祉協議会	専	事務局	
47	コスモスクエア地区開発協議会	大	経営企画室	
48	大阪商工会議所	大	事務局	
49	公益社団法人 日本医師会	法	附属診療所	診療所 関係
50	一般社団法人 大阪府医師会	法	附属診療所	
51	一般社団法人 東成区医師会	法	附属診療所	

●主な連携先

締結年月日	連携先機関等（現在の名称）	連携の種類	備考
H22. 4. 6	地方独立行政法人大阪病院機構 大阪急性期・総合医療センター	相互連携	2017/4/1 大阪府立急性期・総合医療センターから改称
H23. 7. 11	医療法人協和会 千里中央病院	相互連携	
H23. 12. 9	医療法人錦秀会	相互連携	
H25. 5. 27	公益財団法人田附興風会医学研究所 北野病院	相互連携	
H26. 1. 9	大阪府住之江区	包括連携	
H26. 1. 15	医療法人協和会	相互連携	
H26. 6. 3	高槻市教育委員会	連携協定	教育委員会
H26. 11. 19	医療法人社団有隣会 東大阪病院	相互連携	森ノ宮医療大学保健医療学部との連携
H26. 11. 25	吹田市教育委員会	連携協定	教育委員会
H27. 2. 19	学校法人相愛学園 相愛大学	包括連携	
H27. 3. 9	社会医療法人景岳会 南大阪病院	相互連携	
H27. 4. 15	大阪市教育委員会		
H27. 7. 27	守口市教育委員会	連携協定	教育委員会
H28. 1. 29	社会福祉法人帝塚山福祉会	相互連携	
H28. 6. 13	地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター	相互連携	2017/4/1 大阪府立成人病センターから改称
H28. 8. 22	学校法人常翔学園		スタッフディベロップメントにおける大学間連携
H29. 2. 24	社会医療法人純幸会 関西メディカル病院	相互連携	
H29. 10. 5	株式会社かなえるリンク	相互連携	森ノ宮医療大学保健医療学部との連携
H30. 1. 18	放送大学	単位互換	
H30. 1. 26	公益財団法人日本生命済生会 日本生命病院	相互連携	2018/4/30 日生病院から改称
H30. 4. 19	ミズノ株式会社	包括連携	高等学校への活動支援、地域への社会貢献活動 等
H30. 5. 1	ヒューマンプランニング株式会社 (大阪エヴェッサ)	相互連携	選手サポート、学生向け講演、施設有効利用
H30. 11. 1	近畿大学病院	相互連携	
H30. 12. 3	大阪重粒子センター	相互連携	

II. 事業の概要

1. 全体概要

(1) 部門別概要

「学校法人森ノ宮医療学園」

1. 本学園では、年度ごとの事業計画と予算は、前年度 11 月に各部門・各部署で原案を策定し、理事長および理事者によるヒアリングを通じて学園全体のとりまとめを行ったうえで 3 月の評議員会に予め諮問の上、理事会で審議し、承認を受けている。さらに、当年度の 5 月に関係部署ごとに成果報告会と称するヒアリングを開催し、理事長や理事者に対して前年度の成果や実績を報告するとともに、当年度計画の修正を行う機会を設けている。令和元年度においてもこれらを継続して実施した。また、令和元年度は、第 2 期中期経営計画（令和元年度～令和 5 年度）のスタートに当たることから、中期計画目標の達成に向けた施策を着実に実行した。
2. 平成 26 年度から人事制度改革に着手しており、森ノ宮医療大学（以下、「大学」と表記）の教職員と森ノ宮医療学園専門学校（以下、「専門学校」と表記）の教職員に対し、目標管理制度の導入を順次進め、平成 28 年度に導入を完了している。平成 30 年度は、新たに職位・職能の定義を刷新し定着を進めるとともに、理事者による人事面談を試行した。その結果、今後、制度の問題点抽出により、実効性・効率性が確保できる制度改変を継続的に進めていく予定である。
3. 森ノ宮医療大学においては、大学設置基準上の空地の一部を活用して令和 2 年 2 月に新校舎（さくら棟）を建設、竣工して令和 2 年度からの新学科放射線学科の講義室や実習用の医療器機を整備するとともに、広く全学的な交流を活性化するための学生・教職員が自然に交流できる「さくらカフェ」を設けた。
4. 平成 31 年には、外国人留学生に対して、日本語学校（教育施設）として森ノ宮ランゲージスクールを開設し、令和元年 10 月に大阪府から「各種学校」として認可された。将来のさらなる少子高齢化を見据え、学園の「建学の精神」や社会貢献の観点から、介護に携わる外国人等の人材育成事業を 2 段階に分けて事業展開することを機関決定し、令和 2 年度以降は、その各種学校におけるの学科構成を充実する予定である。

「森ノ宮医療大学」

5. 令和 2 年 4 月から設置する大学保健医療学部「診療放射線学科」および大学院保健医療学研究科「看護学専攻（修士課程）」の開設準備を進め、文部科学省に届出した結果認められた。さらに、保健医療学部「臨床検査学科」において、令和 2 年 4 月入学生から取得可能となる「細胞検査士課程」の申請を行い認可された。
6. 令和 2 年度から診療放射線学科と看護学科が主に使用する新棟建設工事を平成 31 年 1 月から着手し、「さくらポート（桜棟）」（地上 5 階建）が令和 2 年 2 月に竣工した。新棟実習室には最新の画像診断装置を配置し優れた教育/研究環境を構築するとともに、同棟内の講義室設置やカフェ設置によりキャンパス環境の充実を図った
7. 本学大学教育の柱であるチーム医療教育：IPE（Interprofessional education）のより一層の充実を目指し、低学年からのチーム医療積み上げ教育の立案および準備を行い、令和 2 年度からのカリキュラム変更を行った。

8. 学生の生活環境および学修環境の充実、大学ブランド力強化を目的として、キャナルポート（南棟）臨床工学科実習室を1Fに移設、ウエストポート（西棟）更衣室の移設、およびパウダールーム設置、助産学専攻科講義室の整備などを実施した。
9. 関西鍼灸系大学間連携4大学が共同開催する「合同就職説明会」が6月に本学の体育館で開催された。鍼灸・整骨院をはじめ、医療施設や一般企業、大学院・専門学校などの施設を招き、各大学の鍼灸学科や柔道整復学科の学生が参加した。
10. 鍼灸学科以外の就職説明会については、看護学科が3月、臨床検査学科が4月、理学療法学科が8月、作業療法学科が9月に本学が独自に取り組みそれぞれ開催した。
11. 昨年に引き続き、森ノ宮医療大学教育後援会および令和元年度卒業生一同から桜の木が寄贈され、大学のキャナルポートと運河間の法面への植樹を行った。

「森ノ宮医療学園専門学校」

- ・本校の教育目標や教育目的などを社会に周知するために、新たに学科ごとに、入学者の受入れに関する方針である「求める人物像」、教育課程の編成及び実施に関する方針である「教育方針」、卒業の認定に関する方針である「到達目標」の3つのポリシーを策定した。
- ・従来よりもさらに学生一人一人に細やかな指導を行い、社会に貢献できる柔道整復師を育成するため、2020年度入学生から柔道整復学科昼間部の入学定員を現行の90名から60名に減じ、併せてアネックス平屋校舎の教室を柔道整復師臨床実習施設として用途を変更するため、所轄庁である大阪府に対し学則の変更申請を行った。
- ・本校の所轄庁である大阪府により養成施設の教育実施状況等の確認としての定期指導調査が実施された。事前の資料調査及び9月18日の実地調査の結果、指導事項なしとの結果を頂いた。
- ・学費減免及び給付奨学金を制度の骨子とする国の修学支援制度の対象校であるための機関要件の確認申請を行い、文部科学省から制度上必要な要件を満たした教育機関としての認定を受けた。これにより2020年度以降、要件を満たす本校学生は当該制度を利用できることとなった。
- ・鍼灸学科においてモデル第三者評価が実施され、文部科学省から委託を受けた私立専門学校等評価研究機構による鍼灸師等養成分野における教育内容等の評価が行われた。事前の書面調査及び12月25日の訪問調査の結果、すべての評価基準を満たしているとの評価結果を得ることができた。
- ・定期試験のみでは学習の進捗状況の把握は困難であることから、従来鍼灸学科で実施していた期中に実施する確認テストを柔道整復学科においても本格的に実施することとした。1年時から国家試験を見据えた模擬テストを重ねることにより、3年計画で国家試験合格に導く指導体制の確立を目指す。また、課外ゼミや卒業生を対象としたゼミについても引き続き実施している。
- ・長年の使用による老朽化が見られていた本校舎1階、5階および6階の空調機器の入れ替えを行った。
- ・10月に東成税務署による任意調査としての税務調査が行われ、大きな指摘事項もなく終えることができた。
- ・図書室において、約180冊の蔵書用図書を新規購入した。
- ・学生募集活動として、オープンキャンパスをはじめとした校内イベントを年間通して実施した。また、受験対象者別の各種広報誌作成、WEBサイトにおけるコンテンツの充実化を行った。その結果、資料請求者数は5,399件（昨年比119%）、イベント来校者数は571名（昨年比114%）と昨年を上回る結果となった。

- ・従来から社会貢献の一環として小・中・高校への出張授業を実施しているが、2019年度については約30校に教員を派遣し実施した。
- ・「ココロとカラダに元気をプラス」をコンセプトに2013年から発行し好評を得ているフリーペーパー「ここ+から (PLUS)」を2019年度も4回発行した。これまでの大阪エリアに加えて奈良エリアでも本格的に配布が始まり、発行部数も18,000部を数えるに至っている。
- ・奈良テレビ「ゆうドキッ！」および、ならどっとFM「十手リンジンの走れゴンタくれ！」に本校教員が出演し、奈良エリアで鍼灸師、柔道整復師として健康情報を中心とした情報発信を行っている。

II. 事業の概要 (2) 主要事業

① 診療放射線学科/大学院看護学専攻開設・附属診療所開設準備 (大学)

診療放射線学科/大学院看護学専攻開設に向けた準備を行い、予定通り 2020 年 4 月に診療放射線学科および大学院看護学専攻の新設となった。診療放射線学科開設にあたっては新棟実習室に最新の画像診断装置を配置し、優れた教育/研究環境を構築した。既存学科に診療放射線学科が加わることで、本学大学教育の柱であるチーム医療教育のより一層の充実・医療系総合大学としてのブランディング向上に寄与できるものとする。また、大学院看護学専攻の開設は、看護領域に特化した高度専門職業人の育成につながり、研究面での発展に寄与する。

教育/研究活動の場の提供・学生/教職員の健康管理システムの充実・地域貢献活動として、大学内附属診療所開設の検討を継続する。みどりの風クリニックを 2020 年度から大学附属クリニックとして活用する準備も平行して進めた。

② 「さくらポート (桜棟)」建設 (大学)

2020 年 4 月の保健医療学部「診療放射線学科」開設のため、2019 年 1 月から北西校地に地上 5 階建ての新たな校舎「さくらポート (桜棟)」を建設し、2020 年 4 月からの運用開始を予定している。校舎のコンセプトは「学生の視点に配慮した、学生が集う、自慢できる学び舎」として、診療放射線学科用の画像診断機器 (MRI・CT 等) を設置した実習室、教室、研究室および看護学科用の教室やコミュニケーションラウンジ等を機能的に配置し、周辺環境にも配慮した外観や 2 階には 250 名が収容できるカフェを併設するなど、本学のキャンパス・アメニティの中心になる校舎が、2020 年 2 月に竣工した。

③ 国際交流センターの活用 (大学)

海外留学プログラムの多様化を目指し、学部共通プログラムに加え、各学科の専門性を活かしたプログラムを計画したが、コロナ禍の影響等によって、一部のプログラムしか実施できなかった。

国際交流の危機管理機能を充実するために、センター職員による情報収集を実施した。

④ キャリアセンターの設置 (大学)

2019 年度新たにキャリアセンターを設置し、大学全体としての就職支援を強化するシステムを構築した。教務室と「臨地・臨床実習委員会」を統合し、連携病院・実習病院との連携強化や臨地実習先病院に関する学科間情報共有も目指し、臨地実習と就職支援を一体化させて稼働させた。また低学年からのキャリア教育を重視し、授業

内キャリア教育・キャリアセミナー実施等、様々な取り組みを行った。

⑤ 既存校舎の改修など修学環境の改善（大学）

学生の生活環境および学修環境の充実、大学ブランド力強化を目的として、キャンパスポート（南棟）臨床工学科実習室を1Fに移設、ウエストポート（西棟）更衣室の移設、およびパウダールーム設置、助産学専攻科講義室の整備などを実施した。

イーストポート（東棟）情報処理室における学生用パソコンの入れ替え、証明書発行機の導入、桜植樹などの外構整備などを実施した。

⑥ 安定的な収益力の確立（専門学校）

ステークホルダーを細分化（高校生、社会人、女性、エリア等）することで、きめ細かなアプローチを行い、本校学生募集イベントに誘導を図った。また、入学センターと広報課が連携を図り、学生募集において重要な位置づけとなっているWEB関連の事業を強化する。具体的には、動画サイト作成、紙媒体とWEBサイトを連動、WEBサイトのコンテンツを拡充、SEO対策の強化などを行った。

その結果、資料請求者数は5,399件（昨年比119%）、イベント参加者数は571名（昨年比114%）となり、ともに増加した。一方、志願者数は過去5年間の中で最も多い183名の出願があった。特に社会人（高校新卒者以外）の出願が約70%あり、少子化が進む中で社会人から多くの志願者を確保できたことは、今後の安定的な収益力にも繋がっていく結果となった。

⑦ 日本語学校開設（法人本部）

2019年4月、森ノ宮医療学園ランゲージスクールを開学させ、68名の留学生が入学した。

⑧ 介護福祉士養成学科開設準備（法人本部）

2021年4月の介護福祉士養成学校の指定を目指し、大阪府へ介護福祉学科設置の申請を行った。

2. 森ノ宮医療大学

(1) 実施事業の概要

① 教育研究機関としての充実による大学ブランディング強化

平成30年度に引き続き、医療系総合大学としての拡充・認知度向上・ブランディングを目指し、また、関西圏の医療職養成大学群内でのプレゼンスを高めるため、教育研究環境のさらなる充実に取り組んだ。

教育面では1) 診療放射線学科新設、2) さくら棟新築、3) チーム医療教育カリキュラムの刷新を中心に取り組んだ。予定通り2020年4月に診療放射線学科を設置。既存学科に診療放射線学科が加わることで、本学大学教育の柱であるチーム医療教育のより一層の充実・医療系総合大学としてのブランディング向上につなげた。診療放射線学科開設にあたって新築されたさくら棟も順調に建築が進み3月竣工。新棟実習室には最新の画像診断装置を配置し優れた教育/研究環境を構築するとともに、同棟内の講義室設置やカフェ設置によりキャンパス環境の充実を図った。さらに、チーム医療教育: IPE (Interprofessional education) の充実を目指し、低学年からのチーム医療積み上げ教育を立案・準備。従来の症例検討会を取り入れた IPW 論に加え、チーム医療教育関連座学の各学年で配置し、連携病院と協働した1年次全学科対象チーム医療見学実習(大阪急性期総合医療センター・国際がんセンター・日本生命病院・関西メディカル病院)のプログラムを連携病院と協働し構築した。これら新プログラムを予定通り2020年度実施となった。

研究面では1) 大学院看護学専攻の開設、2) 全学的な戦略的研究プロジェクトを中心に取り組んだ。予定通り2020年4月に大学院看護学専攻を設置。看護領域に特化した高度専門職業人の育成による研究面の発展につなげた。また、学長推進事業として戦略的研究プロジェクトの構築を目指し、全学的に協議しインクルーシブ医科学研究所を設置した。同研究所では、チーム研究による研究力推進と若手研究者育成・さらなる研究業績の積み上げと外部研究資金獲得を目指し、2020年4月より本格的に稼働する。

② 学生支援サービスの強化

2020年1月竣工のさくらポートにカフェやパウダールーム、コモンスを設置し、学生の生活環境さらなる充実を図った。また、桜の植樹など外構整備を行い、周辺環境の整備も行った。

学修環境については、附属図書館の日曜日開館日数並びに書籍数の増加、各棟に整備したコモンスの充実、学修支援センターによるリメディアル科目や基礎医学に関係するセミナーの充実を図った。

学生支援体制については、学生満足度調査結果を基に学生の要望を集約し、対応可能な案件については迅速に対応し学生満足度の向上に努めた。また、学生相談体制を強化したことにより学生の心身に関する相談件数の増加、さらに大学独自奨学金の充実が功を奏し、相談件数、申請件数ともに増加した。

キャリア支援については、低学年時からのキャリア教育の強化、キャリアガイダンスの実施回数増、キャリアカウンセラー増員によるキャリア相談体制の強化、などを実施した。また就職については就職担当者以外の教職員の協力を得て、面接試験を想定した模擬面接を実施するなど、就職支援の強化を全学的に行った。

③ 募集戦略

2019年度の学生募集活動は、新設の診療放射線学科・大学院看護学専攻科に、施設拡充を絡めて、「医療系総合大学としてのさらなる進化」と、本学の特徴である「チーム医療教育」を前面に打ち出した広報展開で、ブランディング強化を図った結

果、本学への資料請求、イベント参加者、WEB サイトアクセス数、そして志願者数ともに前年を大きく上回り、順調な推移を辿った。また、学部入試では、入学金、学納金の納入期限をこれまでよりも大きく後ろにずらすことで、他の私立・国公立大学と併願しやすい仕組みづくりを行った。

④ 地域連携の強化

大学の地域貢献が求められる中、2019 年度も地域の健康増進を目的に市民公開講座を開催し、地域の多くの方に参加頂いた。また、看護・理学・作業の3学科の教員が中心となって、南港ポートタウン(太陽のまち)における高齢者支援活動を計画し、令和元年5月から月1回程度、「もりもりまちの保健室」と名づけた高齢者向け健康相談活動をスタートさせた。さらに提携しているセレッソ大阪と共催で地域の小学生を対象として「サッカークリニック」を実施した。他にも地域の小学生向けに図書館を開放するなど、地域貢献に努めた。

⑤ 各部署の取り組み

【看護学科】

看護学科において取り組んだ主な事業は、国家試験対策の強化、教育内容の充実、教員の研究力向上、大学院看護学専攻の準備と入学者の定員確保であった。

国家試験対策については、とくに4年次前期より臨床看護学セミナーの授業を開始するとともに、卒業研究担当教員やチューターが担当学生の指導に当たった。模擬試験の成績が下位20%の学生は強化クラスとして補講を行い、その中でも下位の数名は特訓クラスとして個別対応を行った。

教育内容の充実については、看護学科の教育目的を達成するためのディプロマ・ポリシーを、学生にとってわかりやすく、より具体性のある内容となるようプロジェクトチームを作って見直しを行った。

教員の研究力向上については、今年度より研究支援委員会を設置し、教員の研究活動を促進するための企画として、ナーシングリサーチカフェを実施した。これは個々の教員が行っている研究の発表やディスカッションを通して、教員同士が研究活動を共有するとともに、若手教員の研究力の育成にもつながるものとなる。またWP1階の学生の学修スペースに教員の学会発表のポスター掲示板を設置し、教員の研究を学生にも発信できるようにした。さらに大学の戦略的研究プロジェクトやブランディング事業等についても、研究支援委員会が中心となって教員に発信することで、教員全体が大学の研究に前向きに取り組むことができるようになっている。

大学院看護学専攻の準備と入学者の定員確保については、実習施設や卒業生に募集案内を配布し、学術集会のブース等に参加したが、次年度の入学者が2名しか確保できなかった。研究指導担当教員の退職や募集案内の周知が不十分であったことなどが原因であると考えられる。次年度は教員全体および広報室とともに積極的に募集案内を行い、入学定員確保に向けて検討する。

(学科長：吉村)

【理学療法学科】

昨年度に続き、2019年度国家試験において現役生の100%合格を達成した。早期からの対策システムが成熟してきている成果だと思われるが、出願して受験できなかった学生が2名いたため、さらに教育指導・システムの改善を目指す。2019年度の4年間卒業率については82.9%で昨年度の85.7%よりもやや低下し、目標とした95%を達成できなかったものの、80%以上は、他大学と比較しても高水準だと考える。就職率は96.6%であったが、3月終盤にコロナウィルスによる採用活動の抑制が影響した。学内教育では、OSCEを開始し、実習前後教育の質を向上して臨床教育の充実を図ることができた。また指定規則改訂に向けた新カリキュラムを2020年度より実施していくべく体制を整えた。備品についても備品管理係を配置し、老朽化した器材を更新し、

授業運営を円滑に進めることができた。社会貢献においては、地域における介護予防教室・企業との連携など一定の成果を上げることができた。アドミッションにおいては、学科志望者数はほぼ昨年ベースを維持できたが、やや頭打ちの傾向がみえ、今後の募集戦略を見直す時が来ていると考える。

(学科長：三木屋)

【作業療法学科】

学修習慣の醸成をはじめ、きめ細やかな学修支援を行った。2回(1月・3月)の入学前教育では大学で学ぶための準備を整えた(文章読解力など宿題提出と当日課題)。入学直後からは、チューターを中心に基礎医学系科目の補講(解剖学・ステップアップ講座物理学)を開始し、また基礎医学系の知識習得に関してはアクティブラーニングを活用した。国家試験対策は最重要課題としており、1年次早期より開始し、模擬試験を継続している。各学科期末テストなどにも国試問題の傾向を導入している。

国家試験対策として終日3日間の国試塾も開催した。2019年度の完成年度を迎え、森ノ宮医療大学作業療法学科第1回目の国家試験は、全教員一丸となって取り組み、合格率は97.4%であった(39名中1名不合格)。そして定員40名枠の中39名の卒業生を送りだし、就職率は100%であった。

臨床力向上のための教育プログラムとして、積極的に患者さまをお呼びし、臨場感あふれる講義を組み立てた。また、各学年の臨地・臨床実習前には、客観的臨床能力試験(objective structured clinical examination: OSCE)を導入し、実習に必要な臨床能力を確認した上で実習に望んだ。

学科独自の社会貢献にも重点を置き、学生にも積極的に参加させた。学生が近隣の福祉施設へボランティアとして関わり、医療的ケアの研修を受け重度訪問介護のアルバイトも実践している。教員補講の基、福祉住環境コーディネーター検定(任意受験19名合格)・メンタルヘルス検定(任意受験17名合格)・認知症サポーター(全員)の資格も取得した。

(学科長：小林)

【臨床検査学科】

① 国家試験対策の強化

2019年度は臨床検査学科の完成年度を迎え、初めての卒業生を輩出した。国家試験対策として、計画的な補講・模擬試験等を実施し、また成績不振者に対する指導に注力した。令和1年度は満足できる結果を得ることができず、反省点を踏まえた抜本の見直しにより、チューター制度を導入した個別学生指導の強化を基盤とした国家試験対策を新たに構築した。

② 学生募集力の強化

臨床検査の認知度・学生募集力の向上、学科学生へのさらなる知識と資格取得機会提供を目指し、細胞検査士資格取得コース新設を計画。2020年度の設置に向けた準備を行った。新たに教員の確保・教育課程の変更を行い、2020年度入学生より同コースの選択が可能となった。

③ 臨地実習と就職の強化

臨地実習受け入れ施設は2019年度56医療機関で、その4割は地域医療の中核を担う500床以上の基幹病院となっている。学生には先端医療を経験し、臨床検査技師としての専門的知識・技能を深め、実践能力を培うことができる環境を整えている。就職に関してもキャリアセンターと協働し、2019年度の実験合格者の就職率は100%であった。

(学科長：脇)

【臨床工学科】

臨床工学科では、2019年度も「国家試験合格率 100%」、「4年卒業率 95%以上」を目指し、①知的能力の向上による人間力の向上、②学習習慣の確立と日常の自己管理、③ティーチングメソッドの開発、④学生確保の取組、⑤教員の研究活動と研修の充実といった5つの課題を設定した。

2019年度の学内教育においては、テキストマイニングの活用による教育システムの活用を目指し、国家試験対策において専門基礎科目での記述式問題を実施、さらに、実習科目のレポートの考察等で、テキストマイニングによる評価を行うことが出来るようになり、学生の「読む・聞く・書く・話す」の4つの知的能力的要素を高めることが可能となった。また、臨床工学技士に必要なとされる知識と技術を習得するための動画・アニメーション等によるマルチメディアクリップの開発については、教育用のコンテンツの作成が可能となり、このコンテンツの活用により、臨床工学技士教育における専門科目のWeb教材の作成が可能となった。さらに、VR (Virtual Reality) 等を活用することにより、実践に近い経験を体現し、その経験の後に理論を学ぶといった教育システムを構築するための一歩を踏み出すことができ、今後の発展を目指したい。

学生確保に関しては、広報室と協同し、高校への出張講義や医療・工学に特化したサマースクールを開催し、臨床工学技士業務の魅力や将来性をアピールすることができた。特に、サマースクールに関しては、臨床工学への認知、興味という点で、参加した高校生に対する効果が認められたので、更なる充実を図りたいと考えている。しかし、臨床工学科を志望する1, 2, 3年の高校生の減少により、受験生、入学生も減少し、さらに、受験生、入学生の偏差値も低下傾向にあるので、学生確保において、高校生の興味を引く新たな取り組みを創出する必要があり、広報室等との更なる協同を図り、上位の高校生の確保に努めたい。

(学科長：片山)

【鍼灸学科】

新入生 69 名が入学し、6年連続定員の充足を果たした。第一志望受験者は延べ 103 名で初めて 100 名を超えた。第二・第三志望者は延べ 116 名でいずれも過去最大となった。その一方で 12 名の退学者 (1 年 5 名、2 年 5 名、3 年 1 名、4 年 1 名 在籍者 256 名 4.7%) を生んだことは反省点である。年度末時点での単位修得率は 72.8% (1 年生 49/63 77.8% 2 年生 41/59 69.5% 3 年生 44/60 73.3% 4 年生 48/68 70.6%) で前年度の 75.4% を下回った。3 年生では 2 名が 5 年以上の在籍が確定し、4 年次の国家試験受験対象者のうち 10/67 名が留年となった。国家試験の現役合格状況は、はり師 43/48 名 (89.6%)、きゅう師 42/48 名 (87.5%) で全国平均 (はり師 73.6% きゅう師 74.3%) を上回ったが、関西の鍼灸系大学では 4/4 位に低迷した。一方で合格者数は西日本一位を維持したことから、定員充足率および受験者では上位維持している。低学年からの教育強化および国家試験受験教育の再建が急務である。卒業生の 3 月末時点における進路だが、43/48 (89.6%) で年度内に完了しなかった。国家試験に不安を持ち、卒業および国家試験を優先する学生が複数いることが要因であるが、進路に対する意識を高める必要がある。一般企業就職者は 5 名を数えるが、病院などの医療機関は 0 名であった。医療者としての自覚をさらに高めたい。教員採用試験は既卒 1 年目の者が合格した。現役生の合格を目指したい。学科教員査読付き論文は和文 4 編、英文 3 編で、筆頭著者は 4 名であった。研究活動の充実を図りたい。

(学科長：鍋田)

【大学院保健医療学研究科】

①研究指導および学位授与

保健医療学専攻において、特別研究 (いわゆる修士論文) の指導を行い、6 名の修了者に修士 (保健医療学) の学位を授与した。

②看護学専攻修士課程の設置届出

看護学専攻修士課程（入学定員 6 名）の令和 2 年度開設に関する設置届出を行った。
③修士課程の令和 2 年からのカリキュラムを、学科増設による現状に即して、より多様な医療職が履修できるよう改訂した。

④学術セミナーの開催

第 85～96 回大学院学術セミナーを毎月開催した。講師は本学教員 11 名、外部招聘 1 名が担当した。

（研究科長：山下）

【助産学専攻科】

2019 年度助産学専攻科において取り組んだ主な事業は、1) 内部受験生の増加、2) 外部受験生の受験率のアップ、3) 専門的分野の産科・新生児の医師の教育参入、4) 長期に分娩介助実習を依頼できる新規施設の開拓、5) 国家試験対策の強化、6) 教育備品の充実、であった。

1) の内部受験生の増加に関しては、もともとの入学金免除に加えて、学費減免が数名可能なこと、受験日を早め、就職試験への不安がなくなったこと、さらに各学年に専攻科のガイダンスを行い、学内にポスター電子掲示板など、広報に努めた結果、従来の 3 倍の人数の受験となり、2020 年度に 6 名が入学した。

2) の外部の受験生についても受験率を上げ、学生の質を上げていくことを目標にし、受験日を早め、看護学、助産学雑誌に学校紹介などの広報に努めた。4 名の募集に 13 名の受験があり、目標の受験率の 3 倍を達成できた。その成果は、受験生の成績上位者が入学したことで、学生の質の上昇につながると考えられる。

3) の医師の教育参入については、念願の新生児科の医師が講義参入したことで、教育効果が得られた。

4) については、新たに実習施設となった 2 施設が継続事例の実習を引き受けてもらえたことで、学生の学びがさらに深まった。

5) については全員が国家試験に合格し、これで開設時から 100%の合格率を維持できているが、今後も引き続き模擬試験を増やすなど、強化に努める。

6) 教育備品の充実については、上層部の配慮のもと、備品の整備が早期になされ、充実に向けて進んでいる。2020 年度には分娩台が購入され、分娩台については 5 人に 1 台という厚労省の設備基準が満たされる予定である。

2018 年度に産科医師の産科救急・ハイリスク疾患の教育の参入があり、2019 年度から助産学カリキュラムを改正し、新生児専門医師の講義参入、さらに助産学専攻科教員も従来の 4 人態勢が整った。森ノ宮医療大学助産学専攻科の卒業生が就職した各施設で活躍できるようにさらに、努力し、体制を強化していく予定である。

（専攻科長：中西）

【研究支援センター】

本学の研究支援体制のさらなる充実を目指し、新たに下記の事業に取り組んだ。

・学長推進研究支援事業「戦略的研究プロジェクト」実施体制の構築

本プロジェクトは本学第 2 期中期経営計画の中核施策の一つである「研究の森」づくりプロジェクトとしての位置づけであり、本学独自色を打ち出すことができる学科横断的な全学的研究プロジェクトを発掘・実施し、本学のブランディングを構築することを目的としている。医療系総合大学の魅力を活かし、様々な分野の専門家が集結した研究チームを作ることで新しい発想や視点を生み、挑戦性を高め、本学の学術研究の発展・社会への貢献に繋げていく。また、このような分野混在・経験混在の研究者で構成されるチーム研究体制により、個々の研究者の時間的・能力的不足を補い、効率的な研究体制による若手研究者の育成・各研究者の業績積み上げにつなげたい。この実現のため、2019 年度は学長直轄のワーキンググループを発足し、実施体制の構築に向けて検討してきた。その中で、ワーキンググループとしては、本学の中核となる大テーマを「コスモスクエアを中心とした All - inclusive medical science 研究拠点

の構築」と決定し、5つの研究チーム（運動療法エビデンス研究チーム・最新医療技術研究チーム・健康寿命研究チーム・障害支援研究チーム・統合医療エビデンス研究チーム）と1つの研究サポートチームを立ち上げた。また、本プロジェクトは若手研究者の育成・支援体制の構築も目的としており、全学的に実施するため、全教員に対して本プロジェクトの趣旨の説明や研究チームの特徴等に関するプレゼンテーションを行い、積極的な参画を求めた。さらに、2020年度においてはさらなる体制整備・具体的な実現に向けて、本学に「インクルーシブ医科学研究所: Inclusive medical science research Institute」を設置する。

また、学長推進研究支援事業としては、下記取り組みを継続して行った。

- ・学長推進研究支援事業「学長奨励研究プロジェクト」による支援

学長の指示のもと、本学における研究の一層の活性化・高度化を全学的に目指すため（学長推進研究支援事業）、研究者個人の研究活動を支援し、若手研究者育成や全学的な研究力の向上を目的として、学長奨励研究プロジェクトを実施し、学内で公募した。これは、科研費（若手研究・基盤研究種目）において残念ながら採択には至らなかったものの、審査の結果支援すべき研究課題であると判断された場合に、学長奨励研究費を配分することで支援を行うものである。2019年度は以下の2名（2課題）について贈呈した。

稲田 慎 教授（臨床工学科）

テーマ：多階層3次元心臓モデルを用いた不整脈の誘発性・持続性の評価に関するインシリコ研究

仲本 正美 講師（理学療法学科）

テーマ：多様な生活習慣が影響する若年健常者の足底感覚特性の解明（知覚閾値の標準値の構築）

- ・学長推進研究支援事業 科研費 研究計画調書 閲覧制度による支援

科研費における研究計画調書の作成において有効な情報提供を行うことにより、応募の支援、促進、採択件数の増加を目指すため、研究計画調書の開示を行い希望者が閲覧できるようにした。

- ・学長賞（優秀論文賞）による表彰

研究活動の促進、研究発表論文投稿の奨励、ならびに優れた論文を広く社会に公表することで本学の学術研究の振興を図ることを目的として、優秀論文発表者に対して学長賞（優秀論文賞）を授与する制度を設けている。受賞者については学内のみならず本学ホームページにおいても公表し、本学研究者の研究意欲の向上を目指している。2019年度（森ノ宮医療大学 第2回 学長賞）については下記研究者に対し表彰した。

家曾 美里 講師（看護学科）

Kaso M, Takahashi Y, Nakayama T. Factors related to cervical cancer screening among women of childrearing age: a cross-sectional study of a nationally representative sample in Japan. *International Journal of Clinical Oncology*. 2019; 24(3):313-322.

松下 太 教授（作業療法学科）

Matsushita F, Kida H, Tabei KI, Nakano C, Matsuura K, Li Y, Sasaki R, Taniguchi A, Narita Y, Maeda M, Satoh M, Tomimoto H. Clinical Significance of Cortical Lesions in Patients with Multiple Sclerosis: A Neuropsychological And Neuroimaging Study. *Brain and Behavior*. 2018; 8(3):e00934.

辻 義弘 講師（臨床工学科）

Tsuji Y, Suzuki N, Hitomi Y, Sakai Y, Tokoro T, Nishimura M, Mizuno-Matsumoto Y. Relationship between Dream Anxiety in Recurrent Nightmare and Indefinite Complaints in Patients Undergoing Maintenance Hemodialysis A Cross-sectional Study. International Journal of Affective Engineering. 2018; 17(3):213-220.

さらに、その他の支援体制については下記のとおりである。

- ・文部科学省「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」ならびに「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」に準拠した研究機関としての体制の維持・構築
- ・APRIN e-learning システムを利用した研究倫理教育の実施（研究不正の防止）
- ・研究費コンプライアンス研修会による倫理教育の実施（研究費不正の防止）
- ・内部資金研究費の研究実態に応じた適正配分による効率的な研究推進・研究活動支援
- ・科研費等外部資金研究費の応募・申請支援（研究計画調書の事務的確認・支援、その他応募支援）
- ・学術リポジトリ（web）上での「森ノ宮医療大学 紀要」の発刊

（センター長：青木）

【健康管理センター】

学生数の増加に伴い健康管理体制のさらなる充実に取り組んだ。特に感染症予防対策・メンタルヘルスケアを拡充し、小児感染症ワクチン接種フロー等健康管理業務を効率的に一元化した。

健康増進関連事項：

- ・禁煙宣言の遂行（敷地内および近隣の全面禁煙・違反者に対するマナー指導と禁煙サポート・入学時に誓約書の提出）
- ・血圧計の増設

健康管理関連事項：

- ・効率的な健康診断実施のための学校保健法に準じた検査項目見直しと経費削減
- ・学内感染症予防対策の実施（感染者数のリアルタイムでの把握とアナウンス、感染症発症者の抽出・確認・帰宅フローの構築（教務室と連動）・学生相談受付）
- ・医務室業務の充実
- ・みどりの風クリニックとの連携フロー策定
- ・外部のカウンセリングシステム（T-PEC）導入による医療サービスの拡充
- ・Will 申請業務の速やかな実施

臨地実習関連事項：

- ・臨地実習における実習前健康診断関連業務の一元化
- ・感染症予防対策に関する全学ルールの統一（日本環境感染学会ガイドラインに準じた抗体価測定・B型肝炎ワクチン・小児感染症ワクチン接種ルール）と、それに準じた抗体検査～ワクチン接種統一フローの確立および臨地実習機関提出統一フォーマットの作成

メンタルヘルスケア：

- ・心理カウンセラー、看護師などによるカウンセリングの実施
- ・外部のカウンセリングシステム（T-PEC）導入による匿名相談窓口の拡充

- ・ 外部のハラスメント相談サービス（T-PEC）導入準備（2020年4月開始）
- ・ MOR I カフェ会開催、医務室放課後開放など何でも相談しやすい環境づくり
- ・ 休学者支援
- ・ 欠席過多学生の早期把握などの予防対策の強化

（センター長：前川）

【学修支援センター】

学修支援センターは、従来の低学年教育の充実および国家試験対策に加え、今年度より ICT 教育サポートを開始した。国家試験対策について、今年度は従来から実施している支援講座開講件数の大幅増加に加え、今年度より専門科目についても補講体制の構築に着手し、学修支援に貢献した。

ICT 教育サポートでは今後学修支援センターを中心とした ICT コモンズ構築を目指し、相談員を設置して PC 室開放するとともに PC 使用についての相談受付から始動している。

（センター長：角田）

【教職支援センター】

本センターは、本学の教職課程の質的向上を目指すとともに、教員免許状取得及び教職への就業等、教職を志望する学生の支援を目的としている。医療専門職と教員免許状取得を両立させる環境を学生に提供するため、令和元年度は次の取組を行った。

各種ガイダンスの実施：

- ・ 教育実習内諾に関するガイダンス
- ・ 教育実習、介護等体験に関するガイダンス
- ・ 教員免許一括申請に関するガイダンス

教員採用試験対策：

- ・ 専任教員による一般教養・教職教養対策講座の実施
- ・ 卒業生に対してのサポート（筆記・面接・模擬授業・実技対策）
- ・ 教員採用試験対策に関する図書の出し

学校現場体験：

- ・ 学校ボランティアの紹介（小中学校2校に10名が参加）
- ・ 現職の養護教諭を招いての勉強会・交流会の実施

学生サポート

- ・ 学習面や進路等について学生との面談・相談を実施

教職事務の集約化

- ・ 再課程認定申請業務
- ・ 教育実習、介護等体験に関する業務
- ・ 教員免許申請に関する業務
- ・ 教職課程科目及び成績管理に関する業務
- ・ 教員採用試験、教員採用に関する業務

教員免許状更新講習の実施

- ・ 講習実施に関する文科省への申請業務
- ・ 受講者募集に関する業務
- ・ 講習の当日運営に関する業務
- ・ 更新講習受講修了証明に関する業務
- ・ 文科省への更新講習実施報告に関する業務

<令和元年度 教職免許状取得実績>

- ・ 教職免許取得者数[教科：保健体育] 15名

（センター長：老田）

【総務室】

総務室では 2020 年度に設置される診療放射線学科の開設準備に尽力し、新校舎となる「さくらポート」（桜棟）建設計画の推進に取り組み、さくらポート 2 階に設置される「さくらカフェ」のオープン準備、建物全体什器、診療放射線機器の選定などを行った。そのほか、学生の生活環境および学修環境の充実、大学ブランド力強化を目的として、ウエストポート（西棟）更衣室の移設、およびパウダールーム設置、助産学専攻科講義室の整備、キャナルポート（南棟）臨床工学科実習室の再整備、イーストポート（東棟）情報処理室における学生用パソコンの入れ替え、証明書発行機の導入、桜植樹などの外構整備などを実施した。

また、安定した人材供給を図るため、中途採用を行う一方、2019 年度新卒採用者に対する新卒研修実施、大学教職員向け全体研修を実施するなど、人材育成に取り組んだ。

（総務室長：瀬川）

【教務室】

教務室では通常業務に加え、診療放射線学科ならびに看護学専攻修士課程の開設に伴う業務支援、IPW 関連科目の充実を目的とした全学的なカリキュラム変更に伴う文部科学省への申請業務、新学科設置関連（診療放射線学科、看護学専攻修士課程）の事務手続きならびに実習地獲得など新規案件に多数従事した。また、教科書販売の WEB 化、デジタルサイネージや QR コードを利用した学生への情報配信等、学生へのサービス向上と業務の効率化を実施した。

2020 年度に開講する IPW 関連科目である「MBS (Morinomiya Basic Seminar)」、「チーム医療見学実習」について、IPW ワーキンググループと協働し、授業運営に関する最終調整や、「チーム医療見学実習」の実習先である連携病院との実習内容についての打ち合わせ等、低学年からのチーム医療に関する積み上げ教育を計画通り実施できるように準備を行った。2020 年度以降も IPW 関連科目の開講準備及び教育内容等の見直しと改善を進めて行く予定である。

（教務室長：竹中）

【学生支援室】

学生支援室では学生相談業務の充実に努めた。学生生活、心身に関する相談件数、学費ならびに奨学金に関する相談件数も増加し、大学独自奨学金の申請件数も増加した。また、キャリアに関する支援体制も強化したことによりキャリア相談件数は増加し、学生支援室の利用者数は前年度を上回った。

課外活動支援や学修環境整備も滞りなく実施し学生満足度向上に寄与した。様々な支援や環境整備については学生満足度調査結果を基に学生会と連携し、速やかに対応することで学生から一定の評価が得られた。引き続き学生からの要望を拾い上げ、迅速に対応できる仕組みを維持し、学生に寄り添った学生支援体制をより強化したい。

（学生支援室長：在川）

【経営企画室】

経営企画室では診療放射線学科および看護学専攻（修士課程）の新設の申請業務、また助産学専攻科の専門実践教育訓練給付金の申請および職業実践力育成プログラムの申請等を行った。

また、学則・教育課程の変更、寄附行為変更、校地校舎変更届等の各種申請届出業務を行った。

地域連携関係については、市民公開講座の主幹部署として年 3 回開催したほか、南港ポートタウン（太陽のまち）において、看護・理学・作業の 3 学科の教員が中心となって、「もりもりまちの保健室」と題した高齢者支援活動を実施した。

そのほか、「大学コンソーシアム大阪」を母体とする「大阪府地域連携プラットフォーム」に参画したほか、IR活動としては、学生データの編集やIRレポートの取りまとめを行い、提出されたIRレポートは16件であった。そのほか、教職員どうしの交流や理事長と教職員のコミュニケーション促進などを目的に「理事長と教職員の茶話会」を運営し、教職員34人が参加した。

(経営企画室長：小島)

【広報室】

2019年度の学生募集活動は、年度事業計画の学生募集戦略に沿って、志願者確保にも繋がるブランディング強化を図った。特に受験生、高校生への直接的なアプローチを重視しながら、多面的な募集活動を行った。具体的には「オープンキャンパス等の学内イベント開催」、「各種パンフレット・リーフレット等による情報発信」、「WEBサイトの制作・運営」、「高校でのガイダンス、学外の合同進学相談会への参画」「高校・予備校への訪問、説明会開催」、「進学情報誌・サイトを中心とした各媒体への広告掲載」等があげられる。

これらの取り組みの結果、本学への資料請求、イベント参加者、WEBサイトアクセス数、さらには志願者数(※)とともに前年を上回る、順調な推移を辿った。また、上記以外にも、本学が広く認知されることを目的とした交通広告、テレビCM(岡山・四国地区)を展開したり、卒業生や在学生、さらには教職員の本学への帰属意識を高めるために学内報やFacebookで情報発信を行ったりするなど学内外の広報活動に努めた。

※・年間資料請求者数：31,067件(前年比115.2%)

・学生募集学内イベント参加者数：8,372名(前年比123.6%)

・年間WEBサイトユーザー数：673,209(前年比119.0%)

・志願者数：4,451名(前年比157.7%)

(広報室長：石塚)

【会計室】

会計室では昨年度に続き、WEB入試化に伴う、会計室の納付書発行フローや入金管理事務の変更に対応した、またエクセル管理を行ってきた入金管理を学費システムへ移行した。

学納金に関しては、「修学支援制度」への準備をおこなった。

学内電子マネーに関しては、現金収納のフローや関連機器の取扱に変更があったが、対応マニュアルを整備し運用している。

部署別の年度予算管理や卒業研究費の予算管理資料については、月末締ベースで行い、予算執行の実績把握や予算編成時の参考資料を整備した。

(会計室長：岩崎)

(2) 事業成果の概要

① 在学生数・定員充足率・退学者数等の推移

学生数		2017. 5. 1	2018. 5. 1	2019. 5. 1	2020. 5. 1
鍼灸学科	1年生	67	70	68	69
	2年生	64	64	64	63
	3年生	61	61	62	59
	4年生	68	75	67	69
	計	260	270	261	260
定員		240	240	240	240
定員充足率		108.3%	112.5%	108.8%	108.8%
退学者数		11	17	14	
退学率		4.2%	6.3%	5.4%	

学生数		2017. 5. 1	2018. 5. 1	2019. 5. 1	2020. 5. 1
理学療法 学科	1年生	70	70	70	70
	2年生	70	70	69	70
	3年生	69	70	65	67
	4年生	71	77	69	70
	計	280	287	273	277
定員		240	250	260	270
定員充足率		116.7%	114.8%	105.0%	102.6%
退学者数		7	11	4	
退学率		2.5%	3.8%	1.5%	

学生数		2017. 5. 1	2018. 5. 1	2019. 5. 1	2020. 5. 1
看護学科	1年生	90	90	90	90
	2年生	87	90	89	87
	3年生	87	86	83	88
	4年生	91	89	83	83
	計	355	355	345	348
定員		320	330	340	350
定員充足率		110.9%	107.6%	101.5%	99.4%
退学者数		3	13	5	
退学率		0.8%	3.7%	1.4%	

学生数		2017. 5. 1	2018. 5. 1	2019. 5. 1	2020. 5. 1
臨床検査学 科	1年生	72	72	72	72
	2年生	72	72	70	71
	3年生		72	70	68
	4年生			71	68
	計	144	216	283	279
定員		120	180	240	250
定員充足率		120.0%	120.0%	117.9%	111.6%
退学者数		0	5	7	
退学率		0.0%	2.3%	2.5%	

学生数		2017. 5. 1	2018. 5. 1	2019. 5. 1	2020. 5. 1
作業療法学 科	1年生	50	53	50	52
	2年生	47	49	52	50
	3年生		42	42	47
	4年生			41	43
	計	97	144	185	192
定員		80	120	160	160
定員充足率		121.3%	120.0%	115.6%	120.0%
退学者数		6	9	5	
退学率		6.2%	6.3%	2.7%	

学生数		2017. 5. 1	2018. 5. 1	2019. 5. 1	2020. 5. 1
臨床工学科	1年生		70	71	66
	2年生			68	69
	3年生				68
	4年生				
	計		70	139	203
定員			60	120	180
定員充足率			116.7%	115.8%	112.8%
退学者数			2	2	
退学率			2.9%	1.4%	

学生数		2017. 5. 1	2018. 5. 1	2019. 5. 1	2020. 5. 1
診療放射線 学科	1年生				90
	2年生				
	3年生				
	4年生				
	計				90
定員					80
定員充足率					112.5%
退学者数					
退学率					

学生数		2017. 5. 1	2018. 5. 1	2019. 5. 1	2020. 5. 1
学部計	1年生	349	425	421	509
	2年生	340	345	412	410
	3年生	217	331	322	397
	4年生	230	241	331	333
	計	1136	1342	1486	1649
定員		1000	1180	1360	1530
定員充足率		113.6%	113.7%	109.3%	108.0%
退学者数		27	57	37	
退学率		2.4%	4.2%	2.5%	

学生数		2017. 5. 1	2018. 5. 1	2019. 5. 1	2020. 5. 1
大学院 修士課程 (保健医療 学専攻)	1年生	4	7	9	8
	2年生	5	4	6	9
	計	9	11	15	17
定員		12	12	12	12
定員充足率		75.0%	91.7%	125.0%	141.7%
退学者数		0	1	0	
退学率		0.0%	9.1%	0.0%	

学生数		2017. 5. 1	2018. 5. 1	2019. 5. 1	2020. 5. 1
大学院 修士課程 (看護学専攻)	1年生				2
	2年生				
	計				2
定員					6
定員充足率					33.3%
退学者数					
退学率					

学生数		2017. 5. 1	2018. 5. 1	2019. 5. 1	2020. 5. 1
大学院 博士後期課 程	1年生		4	1	1
	2年生			4	1
	3年生				4
	計		4	5	6
定員			2	4	6
定員充足率			200%	125.0%	100.0%
退学者数			0	0	
退学率			0%	0%	

学生数		2017. 5. 1	2018. 5. 1	2019. 5. 1	2020. 5. 1
助産学専攻 科	1年生	10	10	9	10
	計	10	10	9	10
定員		10	10	10	10
定員充足率		100.0%	100.0%	90%	100.0%
退学者数		2	1	1	
退学率		20.0%	10%	11.1%	

②2020年度入学試験受験者数

2020年度 看護学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
A0	112	10	122	111	10	121	7	0	7
公募推薦 前期	338	15	353	328	15	343	40	0	40
公募推薦 後期	147	12	159	139	11	150	12	0	12
一般 前期A日程 3科目	113	7	120	108	6	114	25	0	25
一般 前期A日程 2科目	200	5	205	188	5	193	35	0	35
一般 前期B日程 3科目	30	5	35	26	4	30	8	0	8
一般 前期B日程 2科目	53	0	53	48	0	48	9	0	9
一般 中期	125	9	134	115	8	123	16	0	16
一般 後期	68	3	71	66	3	69	23	0	23
社会人 I期	1	0	1	1	0	1	0	0	0
社会人 II期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定校推薦	6	0	6	6	0	6	6	0	6
計	1193	66	1259	1136	62	1198	181	0	181

2020年度 理学療法学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
A0	54	18	72	54	18	72	6	0	6
公募推薦 前期	134	58	192	132	56	188	24	0	24
公募推薦 後期	70	28	98	70	27	97	13	0	13
一般 前期A日程 3科目	51	16	67	51	14	65	11	0	11
一般 前期A日程 2科目	85	16	101	85	15	100	20	0	20
一般 前期B日程 3科目	12	8	20	11	7	18	2	0	2
一般 前期B日程 2科目	21	3	24	20	3	23	6	0	6
一般 中期	51	25	76	46	23	69	14	0	14
一般 後期	27	19	46	27	19	46	6	0	6
社会人 I期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会人 II期	1	0	1	1	0	1	0	0	0
指定校推薦	10	0	10	10	0	10	10	0	10
計	516	191	707	507	182	689	112	0	112

2020年度 作業療法学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
A0	32	26	58	32	26	58	20	3	23
公募推薦 前期	30	59	89	27	57	84	3	0	3
公募推薦 後期	6	35	41	6	34	40	2	0	2
一般 前期A日程 3科目	6	18	24	6	16	22	1	0	1
一般 前期A日程 2科目	9	16	25	9	15	24	1	0	1

一般 前期B日程 3科目	1	6	7	1	6	7	1	0	1
一般 前期B日程 2科目	4	5	9	4	4	8	1	0	1
一般 中期	5	19	24	5	17	22	2	0	2
一般 後期	2	14	16	2	14	16	2	0	2
社会人 I期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会人 II期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定校推薦	23	0	23	23	0	23	23	0	23
計	118	198	316	115	189	304	56	3	59

2020年度 臨床検査学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
AO	49	29	78	49	29	78	10	0	10
公募推薦 前期	101	72	173	99	70	169	23	0	23
公募推薦 後期	47	29	76	45	28	73	15	0	15
一般 前期A日程 3科目	25	28	53	24	27	51	14	0	14
一般 前期A日程 2科目	38	15	53	37	14	51	18	0	18
一般 前期B日程 3科目	20	22	42	20	20	40	13	0	13
一般 前期B日程 2科目	26	5	31	26	5	31	12	0	12
一般 中期	23	30	53	19	29	48	3	0	3
一般 後期	18	23	41	17	23	40	12	0	12
社会人 I期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会人 II期	1	0	1	1	0	1	0	0	0
指定校推薦	6	0	6	6	0	6	6	0	6
計	354	253	607	343	245	588	126	0	126

2020年度 臨床工学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
AO	33	31	64	32	31	63	19	6	25
公募推薦 前期	31	63	94	31	61	92	15	18	33
公募推薦 後期	18	27	45	15	26	41	6	4	10
一般 前期A日程 3科目	8	18	26	8	17	25	5	2	7
一般 前期A日程 2科目	10	12	22	10	11	21	8	0	8
一般 前期B日程 3科目	1	21	22	1	18	19	1	2	3
一般 前期B日程 2科目	3	5	8	3	4	7	2	2	4
一般 中期	3	19	22	3	16	19	3	6	9
一般 後期	2	12	14	2	11	13	2	4	6
社会人 I期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会人 II期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定校推薦	5	0	5	5	0	5	5	0	5
計	114	208	322	110	195	305	66	44	110

2020年度 診療放射線学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
AO	157	32	189	157	32	189	20	0	20
公募推薦 前期	182	59	241	174	58	232	35	0	35
公募推薦 後期	81	38	119	79	35	114	12	0	12
一般 前期A日程 3科目	58	23	81	56	22	78	17	0	17
一般 前期A日程 2科目	97	13	110	94	13	107	20	0	20
一般 前期B日程 3科目	50	8	58	48	6	54	12	0	12
一般 前期B日程 2科目	75	3	78	71	3	74	11	0	11
一般 中期	64	19	83	61	15	76	9	0	9
一般 後期	50	11	61	47	11	58	10	0	10
社会人 I期	1	0	1	1	0	1	0	0	0
社会人 II期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定校推薦	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	815	206	1021	788	195	983	146	0	146

2020年度 鍼灸学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
AO	28	12	40	28	12	40	20	5	25
スポーツAO	6	0	6	6	0	6	6	0	6
公募推薦 前期	12	26	38	12	26	38	7	0	7
公募推薦 後期	6	23	29	5	22	27	2	0	2
一般 前期A日程 3科目	5	4	9	5	4	9	4	0	4
一般 前期A日程 2科目	6	13	19	6	13	19	5	3	8
一般 前期B日程 3科目	2	4	6	2	4	6	2	0	2
一般 前期B日程 2科目	2	4	6	2	4	6	1	1	2
一般 中期	2	15	17	2	15	17	0	1	1
一般 後期	4	15	19	3	14	17	3	0	3
社会人 I期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会人 II期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定校推薦	30	0	30	30	0	30	30	0	30
計	103	116	219	101	114	215	80	10	90

③2020年度 大学院入学試験受験者数

2020年度 大学院研究科 保健医療学専攻	志願者数	受験者数	合格者	入学者
第1次募集	2	2	1	1
第2次募集	5	5	5	5
第3次募集	3	3	2	2
計	10	10	8	8

2020年度 大学院研究科 看護学専攻	志願者数	受験者数	合格者	入学者
第1次募集	1	1	1	1
第2次募集	1	1	1	1
第3次募集	0	0	0	0
計	2	2	2	2

2020年度 大学院研究科 医療科学専攻	志願者数	受験者数	合格者	入学者
第1次募集	0	0	0	0
第2次募集	1	1	1	1
計	1	1	1	1

④2020年度 助産学専攻科入学試験受験者数

2020年度 助産学専攻科	志願者数	受験者数	合格者	入学者
一般入試Ⅰ	12	12	4	4
推薦入試	1	1	0	0
学内推薦入試	6	6	6	6
一般入試Ⅱ	4	4	0	0
計	23	23	10	10

⑤国家試験合格率

■看護師 第109回

全体	受験者数：65,569人	合格者数：58,514人	合格率：89.2%
新卒	受験者数：59,320人	合格者数：56,175人	合格率：94.7%
本学新卒	受験者数：82人	合格者数：82人	合格率：100%

■保健師 第106回

全体	受験者数：8,233人	合格者数：7,537人	合格率：91.5%
新卒	受験者数：7,318人	合格者数：7,050人	合格率：96.3%
本学新卒	受験者数：10人	合格者数：9人	合格率：90.0%

■助産師 第103回

全体	受験者数：2,105人	合格者数：2,093人	合格率：99.4%
新卒	受験者数：2,098人	合格者数：2,088人	合格率：99.5%
本学新卒	受験者数：8人	合格者数：8人	合格率：100%

■理学療法士 第55回

全体	受験者数：12,283人	合格者数：10,608人	合格率：86.4%
新卒	受験者数：10,749人	合格者数：10,019人	合格率：93.2%
本学新卒	受験者数：60人	合格者数：60人	合格率：100%

■作業療法士 第55回

全体	受験者数：6,352人	合格者数：5,548人	合格率：87.3%
新卒	受験者数：4,795人	合格者数：4,515人	合格率：94.2%
本学新卒	受験者数：39人	合格者数：38人	合格率：97.4%

■臨床検査技師 第66回

全体	受験者数：4,854人	合格者数：3,472人	合格率：71.5%
新卒	受験者数：3,940人	合格者数：3,273人	合格率：83.1%
本学新卒	受験者数：63人	合格者数：34人	合格率：54.0%

■はり師 第28回

全体	受験者数：4,431人	合格者数：3,263人	合格率：73.6%
新卒	受験者数：3,304人	合格者数：2,971人	合格率：89.9%
本学新卒	受験者数：48人	合格者数：43人	合格率：89.6%

■きゅう師 第28回

全体	受験者数：4,308人	合格者数：3,201人	合格率：74.3%
新卒	受験者数：3,304人	合格者数：2,958人	合格率：89.5%
本学新卒	受験者数：48人	合格者数：42人	合格率：87.5%

⑤職種別求人件数

本学宛に送付されてきた求人職種別件数は以下のとおりである。看護師、保健師、助産師、理学療法士、はり師、きゅう師、中高保健体育教員等に加えて、作業療法士、臨床検査技師、診療放射線技師や大学生卒業者を対象とする事務職、営業・販売職など多彩な求人情報が本学に寄せられた。

職種	件数
看護師	520
保健師	100
助産師	109
理学療法士	904
作業療法士	843
臨床検査技師	248
臨床工学技士	108
診療放射線技師	65
はり・きゅう師	345
その他医療従事者	1033
福祉関係(介護職)	972
教員	204
事務職	4859
営業職	4179
その他	7420
総計	21180

<有効求人倍率について>

本学に寄せられた各学科への求人数を求職者数より算出した学科別の求人倍率は、全国の大学卒業予定者向けの平均求人倍率を大きく上回る結果となった。

※参考数値 2019 年度大学卒業予定者の求人倍率全国平均 1.83 倍（リクルートワークス社調べ）

	看護学科	理学療法学科	作業療法学科	臨床検査学科	鍼灸学科
求人件数 (件)	587	904	843	248	345
求職者数 (人数)	82	62	40	69	66
求人倍率 (倍)	7.16	14.58	21.08	3.59	5.23

⑥学修支援センター主催事業

ステップアップ講座（リメディアル科目）：8 講座（40 回）、参加者総数 1579 名

- ・看護のための化学と生物（全 5 回）
講師 - 木田（看護学科）、参加者総数 - 168 名
- ・基礎学修（全 14 回）
講師 - 橋本・金森・東、小川、中西（作業療法学科）、参加者総数 - 700 名
- ・作業療法士のための物理学（全 4 回）
講師 - 中西（作業療法学科）、参加者総数 - 102 名
- ・作業療法士のための学習計画（全 5 回）
講師 - 中西（作業療法学科）、参加者総数 - 242 名
- ・理学療法のための物理学（全 4 回）
講師 - 角田（理学療法学科）、参加者総数 - 174 名
- ・生化学の基礎（全 1 回）
講師 - 小林（臨床検査学科）、参加者総数 - 31 名
- ・物理学（全 3 回）

- 講師 - 稲田（臨床工学科）、参加者総数 - 33 名
- ・数学演習（全 4 回）
- 講師 - 片山（臨床工学科）、参加者総数 - 131 名
- ステップアップ講座（基礎医学科目）：11 講座（56 回）、参加者総数 1900 名
- ・PT・OT のための解剖学・生理学（全 4 回）
- 講師 - 森谷（共通教育部門）、参加者総数 - 149 名
- ・作業療法のための解剖学（全 13 回）
- 講師 - 中西・橋本・金森、参加者総数 - 649 名
- ・臨床検査のための人体の構造・機能（全 5 回）
- 講師 - 川畑（共通教育部門）、参加者総数 - 244 名
- ・解剖生理の基礎（全 5 回）
- 講師 - 川畑（共通教育部門）、参加者総数 - 239 名
- ・人体の機能・構造を含む生理機能検査学、臨床化学（全 7 回）
- 講師 - 小宮山（共通教育部門）、参加者総数 - 280 名
- ・臨床工学のための人体の機能 I + α （全 3 回）
- 講師 - 加納・藤江（臨床工学科）、参加者総数 - 56 名
- ・CE に必要な知識 内分泌編（全 7 回）
- 講師 - 辻（臨床工学科）、参加者総数 - 219 名
- ・臨床工学のための人体の機能 I（全 1 回）
- 講師 - 五十嵐（臨床工学科）、参加者総数 - 14 名
- ・臨床工学のための人体の機能 I + α （全 3 回）
- 講師 - 加納・藤江（臨床工学科）、参加者総数 - 9 名
- ・臨床工学のための人体の機能 II（全 1 回）
- 講師 - 五十嵐（臨床工学科）、参加者総数 - 10 名
- ・病理学 + α （全 7 回）
- 講師 - 加納（臨床工学科）、参加者総数 - 39 名
- ステップアップ講座（専門科目）：7 講座（25 回）、参加者総数 727 名
- ・実習前学習（全 10 回）
- 講師 - 中村・伊藤、参加者総数 - 500 名
- ・臨床工学のための生体医工学（全 2 回）
- 講師 - 布江田（臨床工学科）、参加者総数 - 86 名
- ・臨床工学のための電気電子工学 I & II（全 6 回）
- 講師 - 原（臨床工学科）、参加者総数 - 62 名
- ・情報処理工学（全 2 回）
- 講師 - 中沢（臨床工学科）、参加者総数 - 6 名
- ・人工呼吸（全 2 回）
- 講師 - 布江田（臨床工学科）、参加者総数 - 53 名
- ・医用機器学（全 1 回）
- 講師 - 布江田（臨床工学科）、参加者総数 - 8 名
- ・電気工学 I および II（全 1 回）
- 講師 - 原（臨床工学科）、参加者総数 - 5 名
- ICT サポート講座
- ・PC 基本操作（全 6 回）
- 講師 - 角田（理学療法学科）、参加者総数 - 13 名

⑦研究業績

<英文>

- Kawanami H, Kawahata H, Mori HM, Aoki M. Moxibustion Promotes Formation of Granulation in Wound Healing Process through Induction of Transforming Growth Factor- β in Rats. *Chin J Integr Med.* 2020 Jan; 26(1): 26-32.
- Hori R, Michiwaki R, Isaka M, Nakamura T, Oku Y. Effects of noninvasive ventilation on the coordination between respiration and swallowing in patients with chronic obstructive pulmonary disease. *International Journal of Chronic Obstructive Pulmonary Disease.* 2019; 14: 1485-1494.
- Miyashita T, Kudo S, Maekawa Y. Estimation of the ankle power during the terminal stance of gait using an inertial sensor. *The Journal of Physical Therapy Science.* 2019; 31(4): 354-359.
- Kawanishi K, Kudo S, Yokoi K. Relationship Between Gliding and Lateral Femoral Pain in Patients With Trochanteric Fracture. *Archives of Physical Medicine and Rehabilitation.* 2020; 101(3): 457-463.
- Tanaka K, Kudo S. Functional assessment of the spring ligament using ultrasonography in the Japanese population. *The Foot.* 2020; 44 in press.
- Kudo S, Sakamoto K, Shirakawa T. Comparison of foot kinematics and the morphology of intrinsic musculature of the foot using a foot-type classification based on function. *The Journal of Physical Therapy Science.* 2020; 32(3): 238-242.
- Mikiya R, Momoki C, Habu D. Factors associated with diminished cough intensity in community-dwelling elderly using day care services: a pilot study. *J Aging Res Clin Practice.* 2019; 8: 57-62.
- Higashi Y, Takabatake S, Matsubara A, Nishikawa K, Shigeta H, & Árnadóttir G. Reliability and validity of the Japanese version of the ADL-focused Occupation-based Neurobehavioural Evaluation (A-ONE J): Applying Rasch analysis methods. *Hong Kong Journal of Occupational Therapy.* 2019; 32(1): 32-40.
- Kaneda T, Takabatake S, Higashi Y, Horishima Y, Somei Y, Nakaoka K, Warabino H, Kuwada K, Sakamoto T & Domen K. Evaluation of psychometric properties of the activities of daily living scale of motor function used by caregivers using Rasch analysis. *Journal of Physical Therapy Science.* 2020; 32: 148-155.
- Ogawa Y, Fukuhara K, Tanaka H, Nagata Y, Ishimaru D & Nishikawa T. Insight Into Illness and Defense Styles in Schizophrenia. *The Journal of nervous and mental disease.* 2019; 207(10): 815-819.
- Tanaka H, Nagata Y, Ishimaru D, Ogawa Y, Fukuhara K & Nishikawa T. Clinical factors associated with activities of daily living and their decline in patients with severe dementia. *Psychogeriatrics.* 2019. doi: 10.1111/psyg.12502.
- Yamasaki M, Maekawa Y, Sugimoto K, Mizushima T, Eguchi H, Ogihara T, Shintani A, Rakugi H, Mori M, Doki Y. Development of a Geriatric Prognostic Scoring System for Predicting Survival After Surgery for Elderly Patients With Gastrointestinal Cancer. *Ann Surg Oncol.* 2019 Oct; 26(11): 3644-3651.
- Nishikido T, Oyama JI, Shiraki A, Tsukamoto I, Igarashi J and Node K. COA-CI (2-CI-C.OXT-A) can promote coronary collateral development following acute myocardial infarction in mice. *Sci Rep.* 2019 Feb 22; 9(1): 2533.
- Suzuki N, Hitomi Y, Tsuji Y, Sakai Y, Nishimura M, Hashimoto T and Kobayashi H. Effect of hemoperfusion with hexadecyl-immobilized cellulose beads on myocardial fatty acid imaging in hemodialysis patients : a case series study. *Renal Replacement Therapy.* 2019; 5: 5.

- Fueda Y, Kataoka T, Matsuda F. Effect of Inspiratory Absolute Humidity on Leak During NPPV. *International Journal of Biomedical Science and Engineering*. 2019 Mar; 7(1): 16-19.
- Fueda Y, Matsuda F, Kataoka T. Assessment of noninvasive positive pressure ventilation in healthy young volunteers using salivary stress biomarker. *Future Science OA*. 2020 Feb; DOI: 10.2144/foa-2019-0150.
- Mikami T, Mizumoto H, Katayama T, Hata D. Transition of gastric pH after birth for verification of feeding tube placement. *Pediatrics International*, 2019 Aug; 61(8): 832-834.
- Tsuyuki S, Yamagami K, Yoshibayashi H, Sugie T, Mizuno Y, Tanaka S, Kato H, Okuno T, Ogura N, Yamashiro H, Takuwa H, Kikawa Y, Hashimoto T, Kato T, Takahara S, Katayama T, Yamauchi A. Effectiveness and safety of surgical glove compression therapy as a prophylactic method against nanoparticle albumin-bound-paclitaxel-induced peripheral neuropathy. *Elsevier The Breast*. 2019; 47: 22-27.
- Sakakibara A, Matsui K, Katayama T, Higuchi T, Terakawa K and Konishi I. Age-related survival disparity in stage IB and IIB cervical cancer patients. *J Obstet Gynaecol Res*. 2019 Mar; 45(3): 686-694.
- Kawai E, Takeda R, Ota A, Morita E, Imai D, Suzuki Y, Yokoyama H, Ueda SY, Nakahara H, Miyamoto T, Okazaki K. Increase in diastolic blood pressure induced by fragrance inhalation of grapefruit essential oil is positively correlated with muscle sympathetic nerve activity. *J Physiol Sci*. 2020; 70(1): 2.
- Nakahara H, Kawada T, Ueda SY, Kawai E, Yamamoto H, Sugimachi M, Miyamoto T. Acupoint dependence of depressor and bradycardic responses elicited by manual acupuncture stimulation in humans. *J Physiol Sci*. 2019; 69(6): 1077-1084.
- Sano K, Sakamoto T, Nishimura R, Danno Y, Komi PV, Ishikawa M. Muscle-Tendon Interaction During Human Dolphin-Kick Swimming. *Front Physiol*. 2019 Sep 13; 10: 1153. doi: 10.3389/fphys.2019.01153.

<和文>

- 徳島佐由美. 二分脊椎症児の清潔間欠的導尿に関する文献検討. *日本小児看護学会誌*. 2019; 28: 214-219.
- 徳島佐由美. 重症心身障がい児の短期入所における養育者の安心に繋がる看護支援. *武庫川女子大学看護学ジャーナル*. 2019; 5: 11-20.
- 外村昌子, 村上生美. ノーリフティングポリシー導入による介護老人保健施設の介護職における腰痛に関する身体的・心理的負担. *看護人間工学会誌*. 2019; 1(1): 39-48.
- 藤重仁子, 安井渚, 久木元由紀子, 中村めぐみ, 前田薫, 五十嵐涼介. インフォームド・コンセントの歴史と近年の課題. *森ノ宮医療大学紀要*. 2020; 14 in press.
- 安井渚. 学校生活の移行期にある双子のバランスに影響する要因. *日本ヒューマンケア学会*. 2020 in press.
- 安井渚, 新家一輝, 山崎あけみ. 集団生活への移行期にある幼児期後期にある双子の「分離 - 固体化」の特徴. *日本小児保健学会*. 2020 in press.
- 森谷正之, 吉田篤. 「噛む・食べる」の神経解剖学. *日本歯科東洋医学会誌*. 2019; 38: 29-34.
- 角田晃啓, 山ノ内昂志. 白内障疑似体験ゴーグル装着による重心動揺軌跡の変化. *森ノ宮医療大学紀要*. 2020 in press.
- 河西謙吾, 工藤慎太郎, 林英俊. 大腿外側部の筋動態を撮像するためのプローブ固定装置の開発. *日整超会誌*. 2019; 30(1): 126-131.
- 安田達哉, 工藤慎太郎, 小林久文, 青山倫久, 竹内大樹, 平田正純. 立位前屈時の腰部多裂筋筋厚の変化. *日整超会誌*. 2019; 30(1): 116-119.

- ・青柳努, 工藤慎太郎, 小林久文, 青山倫久, 平田正純, 林英俊. 慢性足関節不安定症における距骨下関節の不安定の評価方法. 日整超会誌. 2019; 30(1): 176-180.
- ・兼岩淳平, 工藤慎太郎, 林英俊. 肩甲下筋, 三角筋等尺性収縮時の前上腕回旋動脈血流速度の変化. 日整超会誌. 2019; 30(1): 88-93.
- ・兼岩淳平, 田中亜吏紗, 羽生瑚幸, 下村咲喜, 工藤慎太郎. 足部足関節評価質問票 SAFE-Q を用いた慢性足関節不安定症を有するスポーツ選手における足部・足関節 QOL の検討. 森ノ宮医療大学紀要. 2019; 13: 37-44.
- ・杉谷竜司, 西山理, 白石匡, 藤田修平, 水澤裕貴, 工藤慎太郎, 大城昌平, 東本有司, 木村保, 東田有智, 福田寛二. 慢性閉塞性肺疾患増悪入院患者に対する非侵襲的陽圧換気療法を用いた理学療法介入 超音波画像診断装置を用いた横隔膜移動距離に着目して. 理学療法学. 2019; 46(6): 442-449.
- ・横森正喜, 工藤慎太郎, 林英俊. Y バランステストにおける側腹筋の筋動態と体幹の運動学との関係. 日整超会誌. 2019; 30(1): 102-108.
- ・林真太郎, 岩田篤, 石倉隆. ニューラルネットワークを用いた脳卒中 ADL 予後予測と治療選択—予後評価チャート (トイレ動作) のシミュレーションによる検討—. 大阪保健医療大学紀要. 2020; 3: 33-44.
- ・東泰弘, 高畑進一, 松原麻子, 西川拓志, 重田寛人, 由利禄巳, 中岡和代, 兼田敏克. 日本版 ADL-focused Occupation-based Neurobehavioral Evaluation (A-ONE) の Rasch 分析を用いた内的妥当性の検討. 総合リハビリテーション, 医学書院. 2019; 47(2): 161-166.
- ・福原啓太, 小川泰弘, 森泰祐, 田中寛之, 西川隆. 統合失調症患者の声による情動表出能力について ~予備的研究~. 大阪作業療法ジャーナル. 2020; 33(2): 117-122.
- ・中村めぐみ, Hwang Eric J. 地域在住高齢者の健康なライフスタイル評価尺度日本語版 (HELP-J) 作成の試み. 大阪作業療法ジャーナル. 2019; 32(2): 143-150. (短報)
- ・中村 めぐみ, 谷村 浩子, 荒木 泰子, 佐浦 隆一. 関節リウマチの手に効果的なハンドエクササイズプログラム Strengthening and Stretching for Rheumatoid Arthritis of the Hand (SARAH) の紹介セラピストによる活用に向けて. 森ノ宮医療大学紀要. 2019; 13: 45-62. (報告)
- ・外林大輔, 川畑浩久. 関節拘縮の病態進展メカニズムと低出力超音波パルス (Low Intensity Pulsed Ultrasound) の影響. 日本柔道整復接骨医学会誌. 2019; 27(3): 125-132.
- ・小宮山恭弘, 脇英彦, 上田真喜子. 臨床検査技師養成校における生理検査でのパニック値教育. 臨床検査学教育. 2019; 11(2): 213-218.
- ・久木元由紀子, 藤重仁子, 外村晴美, 五十嵐淳介, 前田薫. 現代ヨガが心疾患・肥満・乳がんサバイバーに与える効果—文献レビュー—. 森ノ宮医療大学紀要. 2019; 13: 1.
- ・辻義弘, 坂井勇亮, 鈴木尚紀, 人見泰正, 水野 (松本) 由子, 所敏子, 西村真人. ヘモグロビン overshoot を回避したクエン酸第二鉄投与の管理方法. 腎と透析. 2019; 86(5): 645-649.
- ・加納寛也. 大血管部会委員による文献紹介と大動脈手術における体外循環のまとめ〜今更だけど大動脈手術でおさえたいこと〜. Jpn J Extra-Corporeal Technology. 2020; 47(1): 1-7.
- ・山下仁, 大川祐世, 増山祥子. 腰痛診療ガイドライン 2019 の鍼治療に関する誤情報. 全日本鍼灸学会雑誌. 2019; 69(3): 156-165.
- ・古瀬暢達, 山下仁. 鍼臨床における皮膚疾患有害事象に関する文献レビュー. 日本東洋医学系物理療法学会誌. 2019; 44(2): 97-106.
- ・松熊秀明, 大月隆史, 堀川奈央, 鍋田理恵, 鍋田智之. 健康成人に対する四肢への灸刺激が深部温度、自律神経活動および入眠に与える影響. 森ノ宮医療大学紀要 in press.
- ・石崎 直人, 鍋田 智之, 安野 富美子, 藤井 亮輔, 矢野 忠. 日本における鍼灸治療利用者の特徴 全国横断調査データを利用した多変量解析. 厚生指標. 2019; 66(7): 8-12.

⑧競争的研究資金獲得状況（文部科学省科学研究費助成事業・科研費）

<新規>

- ・基盤研究（C）阿部 秀高「医療専門職との連携によるインクルーシブ教育実践カリキュラム構想に関する研究」
- ・基盤研究（C）仲村 正子「超音波診断装置を用いた教材開発」
- ・若手研究 澤田 優子「ハイリスク出生コホートに基づく当事者主体の発達支援プログラムの開発評価」
- ・若手研究 工藤 慎太郎「ランニング障害を引き起こす足部 type の解明 -足部機能に基づく足部分類の開発-

<継続>

- ・基盤研究（C）川畑 浩久「廃用性関節拘縮における RA 系の役割：高齢者 ADL 維持への新戦略」
- ・基盤研究（C）佐野 加奈絵「超スマート社会実現に向けた高齢者の骨格筋調整メカニクスの解明」
- ・基盤研究（C）中原 英博「最新トレーニング理論に基づく革新的運動プログラムのアスリートへの応用」
- ・基盤研究（C）森 誠司「癌の浸潤転移における FGF 受容体とインテグリンのクロスシグナリング」
- ・基盤研究（C）山下 仁「代替医療の臨床研究論文の質：システマティック・レビュー変法による評価」
- ・基盤研究（C）伊津美 孝子「医療ビッグデータ時代における看護の「見える化」推進 eラーニングシステムの開発」
- ・基盤研究（C）南部 登志江「認知症高齢者と子どもの世代間交流に携わる施設職員への交流支援プログラムの開発」（延長）
- ・若手研究 横井 賀津志「暮らしに溶け込んだ二重課題を用いた在宅型の認知機能低下予防プログラムの開発」
- ・若手研究(B) 関口 敏彰「地域在住高齢者の健康寿命延伸に資する腎機能保持を考慮した栄養摂取量の検討」
- ・若手研究（B）木内 隆裕「上肢筋力の Cross-education に関わる神経基盤の解明」（延長）
- ・研究活動スタート支援 辻 義弘「自律神経機能安定化による血液透析患者の身体的な機能改善および QOL の向上」
- ・研究活動スタート支援 西垣 孝行「工肺に対する客観的評価指標を用いたガス交換性能の維持管理ガイドラインの策定」

⑨人権問題啓発活動（人権問題委員会主管）

人権問題委員会研修会の実施

開催日：2019年12月19日（木）

講師：NPO 法人 えんばわめんと堺 代表理事 北野 真由美 様

テーマ：セクシャルハラスメント等のハラスメントの対応

⑩平成 30 年度連携協定

*令和元年度に締結した連携協定はなし。

⑪社会貢献事業座

・市民公開講座〔年3回〕

4月14日(日) 10:00~12:00	物忘れ	基調講演	物忘れ	参加 人数 109人
		講演Ⅰ	認知症と看護(地域包括ケア)	
		講演Ⅱ	認知症患者とリハビリ	
		講演Ⅲ	認知症と鍼灸	
6月16日(日) 10:00~11:50	診療放射線学の進歩	基調講演	診療放射線学の進歩	参加 人数 82人
		講演Ⅰ	放射線診断の進歩	
		講演Ⅱ	放射線治療の進歩	
		講演Ⅲ	放射線診療と看護	
10月27日(日) 13:30~15:30	がん診療の最前線2	基調講演	がん診療-最近の進歩-	参加 人数 78人
		講演Ⅰ	がん患者の看護	
		講演Ⅱ	がん患者と運動	
		講演Ⅲ	がん患者と鍼灸	

3. 森ノ宮医療学園専門学校

(1) 実施事業の概要

2023年度までの5ヵ年計画である第2期中期経営計画の基本目標として「関西圏トップの実現」を掲げ、初年度となる2019年度については、以下の事業を展開した。

1) 教育事業の概要

① 在学生および卒業生への教育活動およびサポート活動

【鍼灸学科】

- ・ 新生に入学前から課していた課題について入学後すぐにチェックテストを実施し、早期からの学習を促すとともに、各学生の学習への取り組みの問題点の把握を行った。
- ・ 基礎医学ゼミに加え、総合的に解剖学・生理学・臨床医学各論を学習できるゼミとして学習関連ゼミを開講した。この結果、特に3年生における成績の向上がみられ、国家試験の合格にもつながった。
- ・ 本校に関する教育として、新生に対して校長によるオリエンテーションを実施し、本校の伝統や教育に対する方針を伝えるとともに本校に対する愛着を持ってもらえるようにしている。
- ・ 学生の学習に対する悩みなどを早期に把握するために全学生に対し、年に3回以上の面談を実施している。
- ・ 1年次より定期的、計画的に診断テストや模擬試験を実施することにより、早期に現状の把握を行っている。これにより、学習状況に問題のあると思われる学生に対してきめ細やかな対策を立てることができ、個々の学生はもちろん、全体的な成績の向上がみられた。
- ・ 両学科合同で体育実習を開催し、クラス内だけでなく、学科およびクラスを越えてコミュニケーション能力の育成と親交を深めることができた。
- ・ 1年次からの定期テスト等の各種試験や面談の結果などを一覧で確認することができる学生カルテを作成し、2020年度以降の指導に活用していく。
- ・ 従来から行っている鍼灸受療体験も引き続き継続している。また入学前に鍼灸を経験することにより職業理解を深めるためにみどりの風鍼灸院での入学決定者を対象に入学前受療体験を実施している。
- ・ 2019年度から各学期の定期試験終了後に各期の授業内容を振り返るための期間を設けることとした。特に定期試験で躓いてしまった内容をきちんと復習する機会となり、その後の年次進行に伴う理解不足の増大を解消することができている。
- ・ 2018年度入学生より各期における定期試験不合格から未修得単位に至る過程を大きく改善し、これまでは定期試験後の追試験不合格で未修得単位としていたものを、追試験不合格後に補講を挟んで追々試験を行うこととした。それでもなお不合格の場合は年度末に実施される未修得単位試験に合格できなかった場合のみ留年となることとした。一見試験が増えることとなり学生の負担が増える様には見えるが、実際はそうではなく、むしろ理解不足を解消するよい機会となっており、学修内容を理解したうえで進級できるようになっている。2019年度においては2年生での1名の留年者が発生したが、多くの学生は複数の試験を重ねることで成績不振者の学修進度もこれまで以上に把握することができるようになっている。

【柔道整復学科】

- ・ 救急救命方を習得するために日本 ACLS 認定資格取得講座を開催した。
- ・ 魅力ある柔道整復実技および臨床実習を実施するために内容を再検討した。2018年からの新カリキュラムへの移行に合わせ、コンプライアンスの遵守と多角的な見地をもって適切かつ魅力ある内容となった。

- ・2年生アドバンスコースにおいてアメリカ研修を開催した。TEXAS A&M 大学 commerce 校にてスポーツ現場での外傷評価や処置だけでなく、医療現場との関わり方、コミュニケーション能力などについて学習した。学生の大きな成長も実感する事ができた。
- ・附属クリニックにおける臨床実習および症例検討会を開催した。柔道整復師である前に医療人を目指す者としての自覚を促し、その中で外傷に対する評価や処置について学び、職業意識を向上させた。また、1年次から実施することとし、入学後の早い段階で臨床現場の空気に触れることができるようにした。
- ・夏季特別講座を開催した。1年次は身体の基本を知る骨学実習、2年次はスポーツに特化したスポーツトレーナー演習を行うなど、クラスの友達同士内で教え合ったり、身体を動かしたりすることで「分かる」、「出来る」という意識を根付かせ、向学心を育成した。
- ・欠席者への早期連絡、成績不振者の早期面談・指導を実施し、出来るだけ早い段階で当該学生に対してフォローを行うようにした。
- ・両学科合同で体育実習を開催し、クラス内だけでなく、学科およびクラスを越えてコミュニケーション能力の育成と親交を深めることができた。
- ・各学年の成績不振者を対象に解剖学・生理学・柔道整復総論などのゼミを開催した。これにより基礎学力が身に付き、学習方法の習得や初年次の躓きが解消できた。
- ・卒業生・在校生に向けて、臨床塾を不定期で開催した。学校教育では触れることのない臨床的な内容を中心に、接骨院経営に関する情報も提供した。臨床への興味が深まり、在校生に関しては学習への関心が高まった。
- ・過去の成績データ（学科全体）から、学生個々の成績（現状）を分析するデータを作成し、個別指導に使用した。

② 国家試験対策

【鍼灸学科】

- ・2017年度入学生より、入学前課題・入学前課題チェックテスト・各期における診断テスト・模擬試験等を実施し3年が経過したが、その3年生が卒業率・国家試験合格率ともに過去10年間でもっとも高い結果となった。
- ・1年次から使用できるオリジナルの国家試験対策ドリルの作成を行い、学生が現在の理解度を確認できるようにした。2019年度に主要な科目のオリジナルドリルが完成した。
- ・3年生の成績不振者を対象とした特別強化授業を実施した。例年週1回で実施していたが、2019年度11月より週3回の実施とし、国家試験の合格に結び付けることができた。
- ・国家試験不合格者へのサポートとして森ノ宮塾と銘打ったゼミを両学科合同で開講している。取り組みが功を奏し、今年度は既卒者合格率が例年よりも上昇した。

【柔道整復学科】

- ・共通ゼミや実技ゼミを週1回、3科目模試も年6回程度実施している。また週1回のペースで小テスト問題を提示し、添削後、学生一人一人に間違ってしまった問題について教科書で調べさせたうえで解説を作成させ、これを教員がチェックしている。これにより主要3科目を中心に理解を深めつつ問題対応能力を身につけ、早い段階で国家試験への意識づけを行うことができた。
- ・外部の模擬試験を2回開催した。自校作成の問題だけでなく視点の違う問題を解いていくことで、国家試験合格に向けての幅の広い問題対応力が身に付いた。
- ・2年生では自分で採点を行い、問題のポイントについてまとめさせる3科目模試や日めくりドリルを行った。これにより学習の習慣を身につけさせ、次年度に迫った国家試験への意識を高めることができた。
- ・国家試験不合格者へのサポートとして森ノ宮塾と銘打ったゼミを両学科合同で開講している。取り組みが功を奏し、今年度は既卒者合格率が例年よりも上昇した。

- ・質問BOXと銘打って、メールによる質問を受け付けた。教員とコミュニケーションをとることが苦手な学生に有効であった。また、仕事などの都合で授業後、学校に残れない学生にとっても有効であった。

③ 社会貢献

【鍼灸学科】

- ・卒業生を対象とした森ノ宮鍼灸セミナー「臨活（「臨」床に「活」用できるセミナー）」を年6回実施。卒業生の参加者が年々増加している。

【柔道整復学科】

- ・第12回 森ノ宮柔道整復学術集会を開催した。卒業生が中心の集まりであるが、教員も発表や座長などで研鑽を積んでいる。

④ 教員研修

【鍼灸学科】

- ・東洋療法学校協会の教員研修会・関西地区の教員研修会に参加し、研鑽を積んでいる。

【柔道整復学科】

- ・授業などの質を向上させるために、各教員がそれぞれ「研究」「臨床」「トレーナー」などの活動に取り組んでいる。教員の資質向上に加えて、研究結果や実際の症例を授業に盛り込むことで、教科書だけでは学べない幅広い内容の授業が展開できている。

2) 事務関係事業

専門学校事務組織においては、昨年度に引き続き業務改善および効率化について各部署で取り組んだ結果、以下の主要事業を行った。

【教務部】

- ・「アロマコーディネーター資格取得講座」を例年通り春季ならびに秋季に開催し、春季11名、秋季15名が受講した。また、助産学専攻科の必修科目として森ノ宮医療大学でも同内容にて開講した。
- ・NESTA パーソナルトレーナー資格養成講座を開催し、定員20名のところ15名が受講した。
- ・例年通り、日本赤十字血液センターの献血活動に協力した。2020年2月3日（月）に献血車が来訪。34名が採血を行った。
- ・2020年3月26日、27日に予定されていた近江杯高校柔道大会は、新型コロナウイルス感染拡大を鑑み、開催中止となったため、救護活動ならびに昨年度から実施している柔道整復学科学生の救護活動見学・補助が実施できなかった。
- ・大阪府専修学校各種学校連合会の「外国人留学生のための出前授業」に登録している本校プログラムに京進ランゲージアカデミー大阪校（大阪市）から依頼があり、2019年9月3日に「ツボをとってみよう！」を開講した。
- ・柔道整復学科アドバンスコースの学生を対象に開講しているエッセンシャル・プロジェクトデザインゼミの活動として、滋賀県甲賀市と連携し「交通脳トレ教室」を2019年6月23日から2020年2月16日にかけて2地区で計8回開催した。
- ・施術所訪問を行った。訪問件数は4件で、運営状況や業界の外部環境について有益な情報を得ることができた。
- ・「第3回柔道整復師・鍼灸師のためのメディカルショー」を企業の協力を得て、2020年3月22日（日）に校友室と協働で開催予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を鑑み開催を中止（順延開催予定）した。
- ・在阪の柔道整復養成校の同窓会組織が合同で活動する大阪柔道整復師養成校合同同窓会（大阪柔道整合同窓会）に参加した。2020年3月22日（日）に柔道整復師・鍼灸師のためのメディカルショーの際に基調講演『未来ある明るい柔道整復業界！それは正し

いカルテから』を併催予定であったが、メディカルショーと同じく中止（順延開催予定）した。

- ・連携協定を締結している社会体育専門学校の医療特修コースの学生7名がダブルスクール入学審査を受け、2020年4月から鍼灸学科夜間コースに4名、柔道整復学科夜間コースに3名が入学することとなった。（教務部長：葉山）

【学務課】

- ・4月10日に学生健康診断を附属みどりの風クリニックにて実施した。欠席者の健診および対象者の心電図計測は5月末までに行い、最終的に受診率は99.1%であった。
- ・教育訓練給付制度利用者に対し、申請書類の発行を行った。
- ・4月と5月の2カ月間、「春の就職フェア」として、ご協力いただいた求人先約300院の求人情報を本校舎1階に掲示した。
- ・10月6日に毎年恒例の就職相談会を開催した。参加治療院約70院、卒業生を含む参加学生約70名であった。
- ・卒業後半年を経過した卒業生に郵送にて進路調査を行った。各人の現状を確認する事ができた
- ・6月と9月に就職活動の進め方や履歴書の正しい書き方などの内容の就職ガイダンスを、夕方の授業のない時間帯を活用し計8回実施した。
- ・2020年度からの国の修学支援制度の開始に先立ち、制度の対象校であるための機関要件の確認申請を行い、文部科学省から基準を満たした教育機関としての承認を受けることができた。また、2020年度から修学支援制度の利用を希望する在校生からの申請を受け付け、日本学生支援機構に推薦を行った。
- ・9月18日の大阪府保健医療企画課による定期指導調査への対応を行い、指摘事項なしとの調査結果を得た。
- ・毎年実施している次年度入学予定者を対象とした入学前通信教育については96名の利用があった。そのうち早期合格者特典として「基礎からの生物」科目を履修した入学予定者は42名であった。
- ・2019年度の卒業式については新型コロナウイルスの影響で規模を縮小した。
- ・学生による授業評価アンケートを、2018年度に引き続き、学生による授業アンケート、教職員による授業見学、担当教員による授業点検評価を1枚のレポートにまとめる方法にて実施した。
- ・文化祭にて、昨年同様にヨーヨー釣りおよび巨大間違い探しを出店した。
- ・2020年1月12日に入学予定者を対象としたプレスクールを開催した。両学科併せて75名の参加があり、アンケート結果では満足度97.3%であった。
- ・はり師きゅう師国家試験および柔道整復師国家試験の出願のサポートを行った。
- ・学生一人一人に対し、きめ細やかな指導を行うための柔道整復学科の入学定員の減員ならびにアネックス平屋校舎の1室の柔道整復師臨床実習施設への用途変更を行い、所轄庁である大阪府に学則変更を伴う申請を行った。
- ・従来から校内に学生用保育所としてみどりの風保育園を開設しているが、2019年度もお子様とともに通学している学生による多数の利用があった。

（学務課長：矢納）

【管理課】

- ・設置予定であった3Fカフェメニューの試食会を開催した。
- ・東成警察署の依頼により「森ノ宮医療学園東成防犯隊」を発足し、キャンペーン活動（駅周辺での啓発活動、区内ランニングパトロールなど）を行った。
→東成防犯功労者の表彰を受けた。
- ・アネックス平屋の廊下天井の補修を実施した。
- ・文化祭において、学生会に協力して運営サポートを行った。
- ・新旧の校舎図面のデータ化を行った。

- ・アネックス平屋整骨院開業に向け改修工事等を実施した。
- ・3階学生ホールのカウンターチェア 12脚の座面を補修した。
- ・3階学生ホール及び地下駐車場の故障した誘導灯を更新した。
- ・403教室のスクリーン、プロジェクターを黒板と併用しやすいように移設した。
- ・本校舎内の学生用ロッカーを地震対策として壁面固定した。
- ・アネックス校舎4階ホールのパーテーションの不具合を改善した。
- ・101実技室、保育園、501実技室、503実技室、601教室、603実技室の空調機更新を行った。
- ・8月より昼休みの弁当販売業者（アルティメットライフ）を1社増やした。
- ・教職員対象の防災机上訓練（DIG）を実施した。
- ・本校舎前看板にある屋外時計の更新を行った。
- ・アネックス校舎（4階建て）カギのシリンダー更新を行った。
- ・3年生の教室に加湿器を設置した。
- ・希望者を募り、職員室のオフィスチェアの約半数を更新した。

（管理課長：入江）

【広報課】

- ・公式webサイトの管理を行い、80,482件のアクセスを得、624件の資料請求やオープンキャンパスなどの申し込みを得た。
- ・フリーペーパー「ここ+から」を4回発行した。
- ・SNS (twitter、Facebook、instagram) の運営を行い、多数のアクセスを得ることができた。
- ・ならどっとFMの情報コーナー「元気もりもり学園」に参画し、週1回本校教員が出演することにより放送地域における本校の認知度を高めることができた。
- ・奈良テレビ情報番組「ゆうドキッ!」の放送枠に参画し、月一回本校教員が出演することにより放送地域における本校の認知度を高めることができた。
- ・教務部と協働でNESTA パーソナルフィットネストレーナー資格養成講座の開催、運営を行った。
- ・教務部と協働でアロマコーディネーター講座のパンフレット作成、配布を行った。
- ・ウェルエイジング講座を開催し、外部から多数の参加者があった。
- ・出張授業を1年間で34回実施し、好評を得た。
- ・中学、高校の修学旅行内における研修としての講座を本校で開催した。
- ・大阪高等学校西地区学年別柔道大会に救護スタッフとして教員2名を派遣した。

（広報課：小笠原）

【企画グループ】

- ・企画グループとして京都施術所の運営（井上・成田）
- ・教務部と連携予定であった「3/25 近江高校柔道大会救護対応」、「3/10 在校生治療院見学ツアー（卒業生コーディネート）」がコロナ感染状況により中止または延期となった。
- ・学術部と連携し、「臨床ヒアリング調査」を実施した。協力者数は10人に満たなかったが、貴重な情報を収集できたと思われる。収集した情報は、学内に開示し、共有化を図った。
また、無料アプリを活用し、図書室購入の新書をWEB上で案内する仕組みづくりを協働した。
- ・学園会計システム上、京都治療院の詳細な予算執行状況データを取得できないため、月次元帳データから収支状況、予算執行状況等を算出できるシステムを作成し、支出状況の見える化を行った。
- ・Google アナリティクスで収集した情報を引き続き提供し、京都治療院ホームページの改善等を図った。
- ・継続して実施している古本募金活動の結果下記の通り。

2017年度	2018年度	2019年度
46冊	75冊	69冊

(企画G：成田)

【学術部】

- ・学術・研究活動に対する支援として前年度実績に基づいて個人学術研究費を適切に配分した。今年度は全体としてはやや低調な利用となった。
- ・今年度の学術活動実績は学会発表4題、学術論文2題と例年より少ない結果となった。
- ・倫理委員会の運営においては、2016年度より研究倫理審査も開始しており、今年度も適切な倫理審査が行われた。
- ・学術活動の成果の発信としてホームページで今年度の学術活動を報告した。

(担当部長：葉山)

【図書室】

- ・図書委員会を2019年9月2日と2019年12月16日に開催し、購入図書を決めたほか、今後の図書室の運営、活動について検討を行った。
- ・図書委員会での決定を受けて新規図書の購入を行った。
- ・図書室会議をほぼ月に一度開催し、新規図書購入リストの作成や図書室運営の改善について検討を行い、随時実施した。
- ・校友会から図書購入費として40万円の補助を受け、図書購入を行った。
- ・図書購入リクエストを学生、教職員を対象に実施した。
- ・蔵書点検も滞りなく行われた。

(部長：吉川)

3) 広報事業

広報事業については、主に下記の事業により行われた。資料請求者数、イベント来校者数は前年を大きく上回り本校の魅力を多くの方に伝えることができた。また、志願者数は過去5年間で最も多い人数となった。

【実施事業】

- ・校内イベントの実施（オープンキャンパス、学校説明会、入試対策講座、授業見学会、個別相談会）
- ・各種広報誌の作成（学校案内パンフレット、入試要項、季刊誌、イベント告知DM、高校生向けパンフレット、社会人向けパンフレットなど）
- ・WEBサイト制作（広報課と連携）
- ・WEB広告の掲載
- ・高校訪問、高校ガイダンスの実施
- ・進学媒体（進学情報誌、進学サイト）への広告出稿
- ・本校認知度向上を目的とした高校前電柱広告、地下鉄アナウンス広告等の実施

【事業成果】

- ・資料請求者数 5,399件(昨年比119%)
- ・イベント来校者数：571名(昨年比114%)
- ・志願者数183名(昨年比104%)

(2) 事業成果の概要

① 在籍学生数

(単位：人)

2020年 4月1日現在		1年			2年			3年			合計		
		在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	
鍼灸学 科	昼	85	0	0	鍼灸学 科	昼	85	0	0	鍼灸学 科	昼	85	0
	夜	20	0	0		夜	20	0	0		夜	20	0
柔道整 復学科	昼	40	0	0	柔道整 復学科	昼	40	0	0	柔道整 復学科	昼	40	0
	夜	14	0	0		夜	14	0	0		夜	14	0
合計		159	0	0	合計	159	0	0	合計	159	0	0	

* 留年および休学は在籍者数の内数

(単位：人)

2018年 4月1日現在		1年			2年			3年			合計					
		在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)			
鍼灸学 科	昼	72	3	0	鍼灸学 科	昼	56	1	0	鍼灸学 科	昼	202	15	1		
	夜	21	1	0		夜	16	0	0		夜	14	3	0	51	4
柔道整 復学科	昼	58	2	0	柔道整 復学科	昼	41	2	0	柔道整 復学科	昼	167	10	1		
	夜	18	0	0		夜	10	0	1		夜	9	2	0	37	2
合計		169	6	0	合計	123	3	1	合計	165	22	2	合計	457	31	3

* 留年および休学は在籍者数の内数

(単位：人)

2017年 4月1日現在		1年			2年			3年			合計					
		在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)			
鍼灸学 科	昼	66	2	0	鍼灸学 科	昼	65	4	1	鍼灸学 科	昼	212	14	1		
	夜	18	0	0		夜	12	1	0		夜	22	1	0	52	2
柔道整 復学科	昼	50	4	0	柔道整 復学科	昼	72	6	1	柔道整 復学科	昼	191	18	1		
	夜	10	0	0		夜	11	2	2		夜	21	4	0	42	6
合計		144	6	0	合計	160	13	4	合計	193	21	0	合計	492	40	4

* 留年および休学は在籍者数の内数

② 年度別退学者数

(単位：人)

年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
退学者数	51	34	38	42	26
退学者比 率	7.8%	6.2%	7.7%	9.2%	6.0%
在学生数	656	545	492	457	430

③志願者数

(単位:人)

入学年度		2016	2017	2018	2019	2020
学科	コース	志願者	志願者	志願者	志願者	志願者
鍼灸	午前	50	56	42	46	55
	医療資格者	4	—	—	—	—
	昼間	27	18	33	39	42
	夜間	16	20	21	27	25
柔整	アドバンス	25	23	32	19	14
	昼間	54	26	26	21	29
	夜間	9	11	22	24	22
合計		233	185	154	176	187

④国家試験合格率

<2019年度>

はり師きゅう師国家試験(第45期)

国家試験成績		2019年度(第28回)2020年2月実施		
		受験者	合格者	合格率
本校現役受験者	はり師	63	62	98.4%
	きゅう師	63	62	98.4%
全現役受験者	はり師	3466	3095	89.3%
	きゅう師	3466	3080	88.9%
本校全受験者	はり師	109	68	62.4%
	きゅう師	105	67	63.8%
全受験者	はり師	4431	3263	73.6%
	きゅう師	4308	3201	74.3%

柔道整復師国家試験(第18期)

国家試験成績		2019年度(第28回)2020年3月実施		
		受験者	合格者	合格率
本校現役受験者	柔道整復師	42	33	78.6%
全現役受験者	柔道整復師	3708	3144	84.8%
本校全受験者	柔道整復師	102	40	39.2%
全受験者	柔道整復師	5270	3401	64.5%

<2018年度>

はり師きゅう師国家試験(第44期)

国家試験成績		2018年度(第27回)2019年2月実施		
		受験者	合格者	合格率
本校現役受験者	はり師	63	59	93.7%
	きゅう師	63	59	93.7%
全現役受験者	はり師	3141	2941	93.6%
	きゅう師	3141	2976	94.7%
本校全受験者	はり師	126	78	61.9%
	きゅう師	119	76	63.9%

全受験者	はり師	4603	3548	77.1%
	きゅう師	4394	3500	79.7%

柔道整復師国家試験（第17期）

国家試験成績		2018年度（第27回）2019年3月実施		
		受験者	合格者	合格率
本校現役受験者	柔道整復師	54	48	88.9%
全現役受験者	柔道整復師	4069	3502	86.1%
本校全受験者	柔道整復師	129	62	48.1%
全受験者	柔道整復師	6164	4054	65.8%

⑤ 求人状況

・求人倍率

	鍼灸学科 (はり師・きゅう師)	柔道整復学科 (柔道整復師)
求人数（人）	3,184	3,313
求職者数（人）	30	23
求人倍率（倍）	106.1	144.0

4. 森ノ宮医療学園ランゲージスクール

【教務関係】

①授業

・非漢字圏の学生を対象としているため、4コマ授業のうち1コマは漢字の授業を行い、漢字への苦手意識の克服と定着を図るためのカリキュラムを作成した。

・日本語力でクラスを分け、2クラス編成で授業を実施した。日本語力の高いクラスでは、当初予定していた年間スケジュールより進度を早め、早期に JLPT 対策の授業を取り入れた。日本語力の低いクラスにおいては、より復習に力を入れ日本語の基礎を定着させるようカリキュラムを修正した。

・前日勉強した内容のチェックテストを翌日に行い、復習と定着を図った。チェックテストは毎日実施し、個々の学生のレベルを把握し、それに合わせた宿題を準備した。

②成績

・年4回の定期試験を行い、成績不振の学生には長期休暇を利用し、補講を実施した。

③出席状況

・タイムカードを導入し、学生が登校した際に打刻させ出席管理を行った。授業開始時刻を過ぎても打刻していない学生には、すぐに電話連絡を入れ出席管理を徹底した。

・欠席する際は、必ず事前に本人が連絡するよう指導を行い、無断欠席をゼロにすることができた。

④面談

・個々の学生の悩みを把握できるよう、学習やアルバイト状況などについて年8回の面談を実施した。面談は担任と事務課の職員で行い、学習・アルバイト状況に問題のあると思われる学生には早期に対応することができた。

⑤授業アンケート

・年2回、非常勤講師を含めた各先生方の授業の分かりやすさや楽しさなどについて、学生へアンケートを実施し、授業に対する満足度を調査した。

(前期：2019年7月、後期：2019年12月に実施)

アンケートの結果を受け、学生の意見を把握し、授業改善につなげるために教員全員でディスカッションを行った。

⑥JLPT対策

・4月生36名全員が、2019年12月に実施された JLPT (日本語能力試験) を受験。

試験の2カ月前より週1回、JLPTの問題集を使用し、対策授業を取り入れた。また、試験の1週間前から JLPT 対策週間とし、その間模試を4回実施した。

⑦教員研修

・授業前については、教案作成等の相談、教案の確認、勉強会を通じて教員の指導力の底上げを図った。また、長期休暇を利用し、授業の振り返りと今後の課題についてディスカッション

ョンを行った。

・経験の浅い先生方には実際に授業で使用する教科書の課から模擬授業を実施してもらい、参加者間でディスカッションを行った。

【事務関係】

① 寮

・ポートタウン西の賃貸アパートを借り上げ、電化製品や Wi-Fi 等、生活用品を揃え、ランゲージスクール学生の寮として運営している。

② 経理

・在学生や新入生の学納金の請求書作成や送付業務、督促を行った。

・銀行の自動引き落とし口座作成の手続きサポートや手続きが完了するまでの間の寮費を事務室窓口で対応した。

③ 学生支援

・在学生や新入生に対し、キャリア共済事業団の学生傷害保険の加入手続きを行った。

・学生の病院診察や通院の付き添いや、学生サービスとしてポケットークの導入を行い、学生が一人でも病院を受診できるようにした。

・アルバイト先の開拓や斡旋を行った。

・アルバイト先と連携し、新入生採用、在学生の面談等アルバイトに関するサポートを行った。

・他の専門学校への進学希望者に対し、学校見学を実施した。

・新入生に対し大阪府結核予防会にて健康診断を実施した。

・学生生活実態調査を実施し、学生生活全般や学習状況の把握を行い、学内教職員で共有することで業務改善を行っている。

・学生の経済問題に対する個別相談と助言を行った。

・退学学生に対する、進路相談と学費の支払い相談に対応した。

④ 在留カード

・新入生入国時にかかる空港出迎えや寮までの案内、住民登録や在留カード取得、印鑑作成、学生証の発行等のサポートを行った。

・年2回の在留カード更新に関する業務を行った。

⑤ 学校行事

・新入生入学式を開催した。

・大阪城見学、空手体験、USJ 体験、餅つき体験等日本文化体験を行った。

⑥ その他

・介護福祉学科設置に伴う大阪府私学課および福祉部提出の申請書類を作成した。

・ランゲージスクール教職員の福利厚生として Will 保険の加入手続きを行った。

【広報関係】

- ・東南アジア諸国の日本語学校、エージェントへの営業活動（ベトナム、ネパール、フィリピン、インドネシア、モンゴル、ミャンマー、ラオス）
- ・本学受験希望者に対し、東南アジア諸国や日本で入試を実施した。
- ・本学合格者に対し、在留資格申請手続きを行った。
- ・ホームページ、Facebook サイトの制作を行った。
- ・ポスター、パンフレット、オリジナルグッズ媒体の制作を行った。
- ・各介護施設へ奨学金貸与の依頼や奨学金を貸与いただく学生の選考に協力した。

【事業成果】

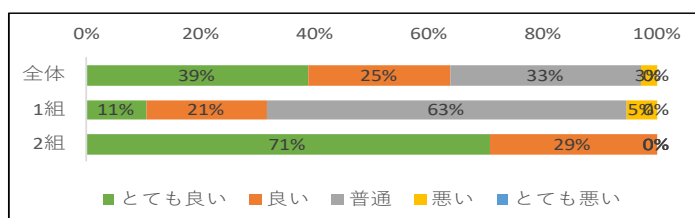
- ・2019年度入学生は、4月36名、10月32名の計68名となり、予定を上回った。
- ・在留資格申請に対する交付結果は、2019年10月生が40名申請に対し37名、2020年4月生は24名に対し17名が在留資格認定証明書の交付を受けた。
- ・68名の入学者に対し、1名が進学、1名が進路変更による退学があり、計66名が2年生へ進級することとなった。
- ・JLPT受験結果としては、N3が25%、N4が46.6%の合格率であった。
- ・2019年10月の学生生活実態調査では、学生生活全般を良いと答えた学生が64%、入学後の日本語学習に対するモチベーションが80以上は86%であった。

JLPT 受験結果

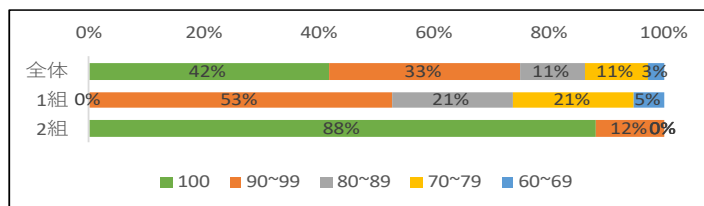
2019年度第2回日本語能力試験（2019年12月1日実施）				
	受験者数	合格者数	合格率	国内合格率
N2	1	0	0%	28.2%
N3	20	5	25%	27.7%
N4	15	7	46.6%	28.7%

2019年度学生生活実態調査結果（2019年10月実施）

学校生活全般について



あなたが入学時にもっていた日本語を勉強したい気持ちは、入学時を 100 とした場合、今はいくつですか。



5-1. みどりの風 鍼灸院

1) 人員について

2019年度は常勤3人、嘱託1人、金曜日午前診1人、月～木曜日の午前・午後診1人の計6人体制で対応した。

2) 鍼灸院業務日程について

①診療日数	234日
②休診日	132日
a) 土曜・日曜・祝日	122日
b) 夏期休診日	4日 (8/13・14・15・16)
c) 年末年始休診日	4日 (12/30・31～1/2・3)
d) 開院記念日	1日 (6/5)
e) 臨時休診 (東洋医学会)	1日 (6/28)

3) 鍼灸院診療時間について

受付時間	月	火	水	木	金	土
午前診 9:00～11:00	○	○	○	○	○	×
午後診 1:30～4:00	○	○	○	○	○	×
夜間診 4:30～7:30	○	○	×	○	○	×
休診日	土曜日、日曜日、祝日					

4) 鍼灸院行事日程について

- ①日本東洋医学会学術総会 (東京) : 3日間 (2019年6月28日～30日)
- ②日本臨床鍼灸懇話会全国集会 (大阪) : 2日間 (2019年11月30日・12月1日)
- ③みどりの風鍼灸院「東洋医学基礎ゼミ」(専門学校2・3年対象:通年)
- ④毎月第1月曜日: クリニック・鍼灸院合同定例会議 (AM 8:00 ～)

5) 鍼灸院学術活動報告について

①学会発表

- a) 日本臨床鍼灸懇話会定例会 (2019年9月13日)
場所: 森ノ宮医療学」園専門学校
・「左臀部の筋力低下による歩行障害に併発したパーキンソン病の1症例」
- b) 日本臨床鍼灸懇話会全国集会 (2019年11月30日～12月1日)
場所: 森ノ宮医療学園専門学校
・「鍼灸治療の適応・不適応病態における鑑別の重要性を再考した症例」

②基礎ゼミ

「東洋医学基礎ゼミ」(専門学校2・3年対象、毎月・金曜日、通年)

③森ノ宮鍼灸セミナー 臨活

- ・「東洋医学的鍼灸の基礎編」内容：問診・脈診・舌診
2019年 9月29日（日）13：00～16：10
- ・「東洋医学的鍼灸の実践編」内容：腹診・症例・実技
2019年10月20日（日）13：00～16：10

6) 鍼灸院見学について

- ・海外からの見学
 - ①ドイツ人2名：10月4日（ 9：00～13：30 ）
 - ①アルゼンチン人2名：10月11日（ 10：00～12：00 ）

7) 鍼灸学科臨床実習について

2018年度の1年生から臨床実習のカリキュラムが変更された。

(1単位：45時間/3年間→4単位：180時間/3年間に拡充)ただし、3年生については卒業年次までは旧カリキュラム単位で行う。

※現在本学園では旧臨床実習のカリキュラムは3年間で2単位の90時間。(1単位：45時間)

①鍼灸学科臨床実習の日程とプログラムの進行

従来通りに「各学生の技能に併せた参加・ステップアップ方式」を実施。
ただし、1,2年次は各学年1単位(45時間)とする。

②実習参加時間帯

- ・昼間コース(1～3年)：午前診
- ・夜間コース(1～3年)：午後診
- ・午前コース(1・2年)：午後診
- ・午前コース(3年)：午後診と夜診のスクランブル

③臨床実習の向上について

鍼灸学科学生の鍼灸実技・臨床能力、臨床実習内容のスキルアップを図る

a)臨床実習個人ファイルの配付：みどりの風鍼灸院「臨床実習ガイドブック」の作成

<1年次ガイドブックの内容>2019年度改訂作成

Chapter1：みどりの風鍼灸院の基礎知識

Chapter2：みどりの風鍼灸院受付マニュアル

Chapter3：鍼灸ワゴンとブースの片付け

Chapter4：みどりの風鍼灸院の血圧・脈拍測定

<2年次ガイドブックの内容>2019年度新規作成

Chapter5：みどりの風鍼灸院の施灸マニュアル

1. 施灸テストの課題
2. 施灸テストの練習と準備
3. みどりの風鍼灸院 施灸テストの手順について

b)1回/月：鍼灸院院長と鍼灸学科学科長の定例ミーティングを実施。次年度に向けて、
鍼灸院スタッフと鍼灸学科教員と合同会議の実施。

c)臨床実習と鍼灸実技授業のリンクと技術向上を狙って、鍼灸学科前期の1年生実技試験
において鍼灸院スタッフが血圧測定の評価を行った。

(血圧測定は1年次の臨床実習プログラムである)

8) 卒後研修制度実施について

- ①2019年4月から新たに5名の卒業生(2019年3月卒業)を受け入れて研修を開始した。
- ②国民のための鍼灸医療推進機構(AcuPOPJ)が主催する鍼灸師卒後臨床研修2年間実施。

※国民のための鍼灸医療推進機構 (AcuPOPJ) は4つの団体が協力して設立した任意団体である。

- ・公益社団法人日本鍼灸師会、
- ・公益社団法人全日本鍼灸マッサーヂ師会
- ・公益社団法人全日本鍼灸学会、
- ・公益社団法人東洋療法学校協会

- ③2019年度の卒後研修生は合計8名

1年間の研修生：4名（3月末日で研修終了）

2年間の研修生：4名（内：1名は1年目修了、3名は2年目修了）

9) 入学前の鍼灸受療体験の導入（4年目）

最近の鍼灸学科入学者において一度も鍼灸治療を経験したことがない学生が増加傾向にある。そこで、専門学校鍼灸学科の入学内定者に対して、入学者本人と本人の家族1名の無料体験を実施した。2019年度は16名（内家族8名）が受療を体験した。

（前年度の2018年度：18名（内家族6名）

10) 鍼灸療養費払い（鍼灸保険）について

- ①療養費については、鍼灸院スタッフが、療養費払いの手続きをしっかりと理解して、学生に対して“正しい鍼灸療養費制度”の教育に重きを置いて進める方向で始動した。

特に、同意書においては、患者さんがいつもお世話になっている“かかりつけの医師”に「鍼灸での治療を受けたい」と伝えて同意書を発行していただけるか、相談していただくことを大前提として進めて行くことにした。

- ②近畿厚生局の受領委任の取扱の登録を行った。
- ③近畿厚生局の療養費払いの指定講習会に参加。

11) 2018年度の患者動向と2019年度患者動向についての詳細

単位：人

	2018年度					
	全体患者(新患)	一般患者	小児患者	学生患者	卒業生患者	職員患者
4月	409(30)	218	23	103	55	10
5月	484(21)	234	29	163	54	4
6月	465(13)	227	27	155	47	9
7月	447(9)	225	26	146	41	9
8月	395(11)	217	26	108	42	2
9月	398(10)	203	23	120	39	13
小計	2598(94)	1324	154	795	278	47
10月	492(12)	247	25	163	53	4
11月	449(10)	247	21	123	50	8
12月	404(8)	207	19	125	45	8
1月	383(18)	188	26	124	40	5
2月	436(13)	210	33	140	45	8
3月	460(36)	260	35	103	48	14
小計	2624(97)	1359	159	778	281	47
計	5222(191)	2688	313	1573	559	94

	2019年度					
	全体患者(新患)	一般患者	小児患者	学生患者	卒業生患者	職員患者
4月	452(15)	242	39	90	68	13
5月	455(8)	240	25	104	70	16
6月	434(15)	206	23	130	59	16
7月	446(12)	245	19	105	60	17
8月	376(7)	217	22	82	52	3
9月	417(10)	222	18	119	50	8
小計	2580(67)	1372	146	630	359	73
10月	469(12)	239	20	150	53	7
11月	465(14)	232	37	132	57	7
12月	468(9)	235	30	137	58	8
1月	458(12)	236	25	140	51	6
2月	409(14)	217	18	122	45	7
3月	410(16)	213	36	93	58	10
小計	2679(77)	1372	166	774	322	45
計	5259(144)	2744	312	1404	681	118
前年度差	37(▲47)	56	▲1	▲169	122	24

① 年間総患者数について

2019年度年間総患者数は5,259人(月平均約438.2人)となる。前年度2018年の5,222人と比べて37人増(月平均約3.1人増)と患者数は増加した。

② 年間新患者数について

2019年度年間新患者数は144人(月平均約12.0人)となる。前年度2018年の191人と比べて47人減(月平均約3.9人減)と新患者数は減少した。

③ 年間一般患者数について

2019年度年間一般患者数は2,744人(月平均約228.7人)となる。前年度2018年の2,688人と比べて56人増(月平均約4.7人増)と一般患者数は増加した。

④ 年間小児患者数について

2019年度年間小児患者数は312人(月平均約26.0人)となる。前年度2018年の313人と比べて1人減と小児患者数は減少した。

⑤ 年間学生患者数について

2019年度年間学生患者数は、1,404人(月平均約117.0人)となる。前年度2018年の1,573人と比べて169人減と学生患者数は減少した。

⑥ 年間卒業生患者数について

2019年度年間卒業生患者数は681人(月平均約56.8人)となる。前年度2018年の559人と比べて122人増と卒業生患者数は増加した。

⑦ 年間職員患者数について

2019年度年間職員患者数は118人(月平均約9.8人)となる。前年度2018年の94人と比べて24人増と職員患者数は増加した。

12) 2019年度と前年度の患者数と施術現金収入動向について

	2018年度		2019年度	
	患者数(新患)：人	施術収入	患者数(新患)：人	施術収入
4月	409(30)	¥855,500	452(15)	¥979,500
5月	484(21)	¥966,400	455(8)	¥983,300
6月	465(13)	¥923,500	434(15)	¥866,200
7月	447(9)	¥947,300	446(12)	¥967,800
8月	395(11)	¥858,800	376(7)	¥847,400
9月	398(10)	¥824,700	417(10)	¥883,100
小計	2598(94)	¥5,376,200	2580(67)	¥5,527,300
10月	492(12)	¥994,100	469(12)	¥970,200
11月	449(10)	¥974,000	465(14)	¥931,600
12月	404(8)	¥824,700	468(9)	¥954,400
1月	383(18)	¥753,700	458(12)	¥941,200
2月	436(13)	¥854,400	409(14)	¥864,500
3月	460(36)	¥972,400	410(16)	¥816,900
小計	2624(97)	¥5,373,300	2679(77)	¥5,478,800
合計	5222(191)	¥10,749,500	5259(144)	¥11,006,100

2019年度鍼灸施術現金収入は、11,006,100円である。

前年の10,749,500円と比べて6,100円増と施術現金収入は増加した。

5-2. みどりの風クリニック

1. 事業進捗状況

1) みどりの風クリニック診療時間

下記の通り診療業務を実施している。

(1) 整形外科

	月	火	水	木	金	土
9:00~12:00	●	●	●	●	●	
13:30~16:00	×	×	×	予約制 (再診)	×	×
16:30~19:30	●	●	×	●	●	×

※2月より16:30~19:30は休診、16時までの診察を17時までに変更。

また2月は火曜日9:00~12:00のみ、3月は火曜9:00~17:00のみ

(2) 内科・循環器内科・漢方内科

	月	火	水	木	金	土
9:00~12:00	●	●	●	●	●	×
13:30~16:00	●	●	●	●	●	×
16:30~19:30	×	×	×	×	×	×

※2月より17時までの診療に変更（木曜日以外）

2) 森ノ宮医療学園の学生臨床実習実施状況

下記の通り、各学生臨床実習を実施した。

(1) 森ノ宮医療学園専門学校

・柔道整復学科 臨床実習

2019年4月1日~2020年3月31日まで

対象：柔道整復学科2年昼間部・夜間部、3年昼間部・夜間部の全学生
学生計160名受入

リハビリテーション科での臨床実習のみならず、他の医療職との連携を学ぶため、整形外科の診察見学、放射線科の見学、医事課の見学も行った。

下記の要項の通り、研修生を受け入れた。

(1) 卒後臨床研修の趣旨

卒後臨床研修は、柔道整復師が医療人としての人格と医療の果たすべき役割を認識して取り扱う外傷疾患に対して適切に対応し、後療法を行なえるよう臨床の現場で基礎から実践的な柔道整復学を学び柔道整復師としての必要な知識や能力を身に付けることを目的としている。

- (2) 対象
柔道整復師
- (3) 人数
3名
- (4) 研修施設
森ノ宮医療学園附属みどりの風クリニック
- (5) 主な特徴
 - ・多様性と柔軟性を持った卒後研修制度
 - ・医療機関との連携の必要性を学べる
 - ・柔道整復師本来の業務である骨折、脱臼の整復を学べるなど
- (6) 研修内容
 - ・リハビリ室での見学
 - ・運動器リハビリテーション、骨折、脱臼、捻挫、靭帯損傷等外傷のギプス固定、シーネ固定、テーピング固定、徒手整復を主とした研修。
- (7) 研修期間
週決められた日数を3ヵ月、6ヵ月、1年間のコースを選択して行う。
- (8) 卒後臨床研修コース概要
見学研修を3ヶ月とし、本校柔道整復科卒業生で6ヶ月コース、1年コースを選択したものは3ヶ月の研修後実際に患者さんを治療する臨床研修に移行していく。
外部コース（他校卒業生）は見学実習のみを予定している。

3) 外部実習生の研修受入状況

下記の通り、各部門において外部実習生の研修を行った。

- (1) 整形部門
前年度に引き続き AT 長島治療院より、施術スタッフ 15 名の技能及び資質向上を目的として、毎週月曜日の夜診帯に 1 名、金曜日隔週で 1 名が 1 年間を通して見学研修として受け入れている。

4) 健康診断・予防接種等の実施状況

下記の通り、当クリニックにおいて森ノ宮医療大学の学生に対する B 型肝炎予防接種、森ノ宮医療学園専門学校の実施基準による学生健診、また、厚生労働省で定められている教職員の健康診断等を法人からの依頼により実施した。

- (1) 学生健診の受入
 - ・実施日時：2019 年 4 月 10 日
 - ・実施人数：専門学校学生 402 名

- (2) 教職員定期健康診断の受入
 - ・実施期間：2019年7月1日～8月21日まで
 - ・実施人数：大学113名、専門学校31名、診療所18名、LS3名
- (3) インフルエンザ予防接種実施
 - ・実施期間：2019年11月1日～12月28日まで
 - ・実施人数：265名（一般患者・学生119名、大学教職員112名、専門学校教職員17名、診療所職員17名）
- (4) 大学学生B型肝炎ワクチン予防接種
 - 1回目 2019年6月13日・18日 380名
 - 2回目 2019年7月11日・16日 374名
 - 3回目 2019年10月31日・11月5日 361名

5) トレーナー活動との連携強化

現在、当クリニックでは、宮崎医師と親交のある今福トレーナー、所トレーナーを通じ、下記、当該チームのメディカルチェックを含め医療面のサポート体制の保持に努めている。

- (1) 大学野球 近畿大学 硬式野球部
- (2) 高校野球 近畿大学附属高校 硬式野球部

その他、専門学校教員の関与する各種スポーツ部門のチーム（清風高校・中学校体操部、大阪桐蔭高校バスケットボール部、豊田自動織機陸上部など）からの依頼に対しては、臨機に対処するように努めている。

尚、参考ではあるが、当クリニックリハビリ科員の理学療法士池上は、滝川第二高校、及び、大阪工業大学の硬式野球部コーチに就任している。

6) 医療スタッフの学術活動状況

- (1) 学術参加状況
 - ・第116回 日本内科学会（2019年4月26～28日）
 - ・10回日本プライマリケア連合学会（2019年5月17～19日）
 - ・高校野球トレーナーサミット（2019年5月19日）
 - ・JCFAR第2回学術集会（2019年6月1日～2日）
 - ・柔整外傷 EXPO OSAKA（2019年6月16日）
 - ・第11回 日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会
（2019年6月13～15日）
 - ・臨床徒手理学療法勉強会（2019年8月3日、10月19日）
 - ・第53回作業療法学会酒井医療特別企画 スプリントワークショップ
（2019年9月8日）

- ・全病理近畿地方会課題講習会（2019年9月29日）
- ・日本肩関節学会（2019年10月25日～26日）
- ・ランニング障害投球障害下肢の理学療法セミナー（2019年11月10日）
- ・第28回日本柔道整復接骨医学会（2019年11月23～24日）
- ・第25回スポーツ傷害フォーラム（2020年1月18日）
- ・近畿地域診療放射線技師会学術大会（2020年2月9日）
- ・2020年度診療報酬改定セミナー（2020年2月24日）

(3) 加入団体

- ・日本医師会
- ・大阪府医師会
- ・東成医師会
- ・日本整形外科学会
- ・JOSKAS
- ・日本内科医学会
- ・日本消化器関連学会
- ・日本看護協会
- ・大阪府看護協会
- ・日本診療放射線技師会
- ・大阪府放射線技師会
- ・全国病院理学療法協会
- ・日本理学療法協会
- ・日本柔道整復接骨医学会

2. 保険診療状況

1) 患者動向実績

患者数について、内科部門は前年度とほぼ同程度であった。整形部門は介護保険制度の変更もあり今年度始めから減少し、また2・3月も整形外科医の退職に伴う休診が31日分発生した為、4,393人と大幅な減少（前年度比約15%減）となり、全体でも大幅な減少（前年度比約13%減）となった。

2019年度 (上段:本年度、中段:前年度、下段:差異) 単位:人

月	日数	全体			内科			整形		
		患者数	初診	再診	患者数	初診	再診	患者数	初診	再診
計	234	28,653	3,379	25,274	4,515	886	3,629	24,138	2,493	21,645
	237	32,755	3,977	28,778	4,224	840	3,384	28,531	3,137	25,394
	▲3	▲4,102	▲598	▲3,504	291	46	245	▲4,393	▲644	▲3,749

2) 保険診療実績

保険請求額は患者動向と同様に、内科部門は 115 万円増加（前年度比約 6%増）したが、整形部門は患者動向と同様の理由により 2,368 万円減少（前年度比約 19%減）と大幅に減少し、全体でも前年度を下回る 2,253 万円（前年度比約 15%減）結果となった。

2019年度 (上段:本年度、中段:前年度、下段:差異)単位:人・円

月	日数	全体			内科			整形		
		患者数	請求金額	平均単価	患者数	請求金額	平均単価	患者数	請求金額	平均単価
	234	28,653	123,852,450	4,322	4,515	20,715,020	4,588	24,138	103,137,430	4,273
計	237	32,755	146,382,590	4,469	4,224	19,563,920	4,632	28,531	126,818,670	4,445
	▲ 3	▲ 4,102	▲ 22,530,140	▲ 147	291	1,151,100	▲ 44	▲ 4,393	▲ 23,681,240	▲ 172

※平均単価は端数を四捨五入

3) 自由診療状況

健康診断・予防接種・特定健診・自賠責等の自由診療については、1,954 万円となり、前年度の 2,178 万円を約 224 万円（前年度比約 11%減）下回る結果となった。

6. 京都施術所

(1) 人員体制

常 勤：柔道整復師 3 名、鍼灸師 1 名 計 4 名

受 付：3 名（交替制 常駐 1 名）

- ・昨年度鍼灸師兼 A T 1 名退職、今年度柔道整復師を 1 名新規雇用。

(2) 治療院業務日数。

①診療日数 228.5 日

- ・診療日時 9：00～12：30／16：00～20：30 月～金

②休診日数 137.5 日 定休日以外に台風、トレーナー活動、勉強会、定期清掃

③運営ミーティング：月 1 回企画 G と合同の定例会議（13：30～）を行い、情報共有及び PDCA を行っている。

(3) 広報・院外活動

【継続活動】

①トレーナー活動（バニーズ京都 SC、京都大学ラグロス部他、京都精華高校サッカー一部他）

②運動部マネージャー等対象とした勉強会開催（ケガ予防やテーピング方法等）

③小児鍼普及活動（地域児童館において小児鍼体験講座）

④健康講座開催

- （老人福祉センター等、民間企業（大塚製薬）他において高齢者対象とした講座）

⑤治療院前でのブラックボード設置や LINE@、インスタグラム、Facebook による情報発信

⑥近隣大学運動部へのアプローチ

【新規活動】

①環境省参画の「熱中症予防 声かけプロジェクト」賛同会員に登録し、熱中症対策アドバイザーとして活動した。主な活動は下記の通り。

- ・小学生・中学生・高校生・大学生対象としたスポーツ現場の熱中症対策勉強会
- ・高齢者を対象とした、熱中症対策講座の開催。
- ・治療院前に「暑さ指数」を掲示し、通行人等へ熱中症の注意喚起を行った。

活動結果として、「ひと涼みアワード 2019 スポーツ部門」で優良賞を受賞した。

[「https://www.hitosuzumi.jp/award2019/dl/awards2019.pdf」](https://www.hitosuzumi.jp/award2019/dl/awards2019.pdf)

②訴求力を高めるためホームページ自作から専門業者による作成移管（本格稼働は 2020 年度）。

③情報収集を目的として 9 月に京都商工会議所に加入。

④産業セラピストとして、各仕事場での施術が行える訪問治療を展開。

【その他】

・インターンシップ受け入れ（9 月 6 日から 2 週間、大阪国際大学 1 名）

・臨床見学実習生受け入れ（森ノ宮医療大学鍼灸学科 2 名 5 月 14 日から計 5 回）

- ・森ノ宮医療学園専門学校 柔道整復学科 アドバンスコース 2名 見学受入

(4) 運営状況等

「(3) 広報・院外活動」の頻度を高めた結果、スポーツ外傷の20歳代患者が増加した。それに伴い、慢性疾患と診られるものもあったため、鍼灸治療を促し、鍼灸患者数も若干増加した。

但し、30歳以降の患者層や慢性疾患が少ないことから、京都商工会議所に加入し、働き世代へのアプローチ手法の検討を始めた。また、訴求力を高めるためホームページ刷新を始めた。

7. 出版部

1. 学生、卒業生への知識や情報の開示と還元

1-1 季刊誌の継続的発刊

鍼灸 OSAKA133 号から 136 号までの 4 号を発刊。無事に継続的な発刊を行っている。また、年 4 冊発行を 3 冊に変更し、書籍の充実を図る。

テーマ：女性の健康寿命をアップする（133 号）点灸と道具を使ったお灸（134 号）

未来へ向けて、小児鍼治療（135 号）耳鼻咽喉科疾患を治療する（136 号）

あとはとき 3 号から 6 号までの 4 号を発刊。セット販売（定期購読）も実施。森ノ宮医療学園出版部（以下出版部）は公益法人の収益事業でありつつ一般書店でも書籍を販売できる機能を活かして『あとはとき』発行を担っている。

テーマ：あはきと「医業類似行為」（3 号）あはきと費用対効果（4 号）

「モクサアフリカ」と何か（5 号）患者さんの権利について（6 号）

1-2 既刊本のブラッシュアップ

『臓腑経絡学』の在庫売切れが発生し、販路が比較的明確なことから、500 部の増刷を実施した。

1-3 教科書販売

専門学校新入生の教科書販売も実施し、鍼灸学科 890,222 円（販売 5,149,593 円仕入 4,259,371 円）、柔道整復学科 1,208,691 円（販売 6,096,582 円仕入 4,887,891 円）の売上となった。2019 年度より鍼灸学科が 1 学年のみの購入となったため、全体的に前年より減額となった。

2. 学園広報への貢献

2-1 書籍の書店配刊

取次書店を通し全国 36 店舗に配刊（常備委託）。2020 年 5 月に入れ替え予定。

2-2 出展・広告への参画

第 68 回（公社）全日本鍼灸学会学術大会、第 28 回日本刺絡学会学術大会、第 3 回鍼灸フェスタ OSAKA、第 13 回（一社）日本小児はり学会学術集会、第 47 回日本伝統鍼灸学会学術大会、学生応援セールなどに出展。購読者の獲得と執筆者との顔つなぎなど多方面に活かせる機会となった。

日本鍼灸新報、現代鍼灸学、伝統鍼灸、メリディアン、鍼灸柔整新聞、漢方の臨床、中医臨床、経絡治療、日本小児はり学会会誌など学会誌や業界誌へ、販促の重要なツールとして引き続き参画した。

2-3 校友会との協力

昨年度に引き続き校友会報の制作、ならびに3月発送卒業生用DMの制作を行った。

アルゼンチンからの研修(10日間のショートステイ)の要望を受け、2019年度10月に実施した。本活動は、海外で高い評価を得ている日本の医療文化・鍼灸へのより一層貢献を図るものである。

3. 収益事業としての継続

3-1 販売管理の徹底

正確なデータを収集するため、受発注者を絞り、入力や発送など基本的事項を見直す作業に費やした。その中で販売ソフトの活用や、管理票、帳票など仕分け、整理も行い、次年度に向けて準備している。「収益拡大」を目標に、ハードル一つ一つを超えることを現段階では重視している。

Ⅲ. 財務の概要

大学の学生増もあり、教職員増（人件費増）、クリニック等の職員の退職、専門学校の募集低迷とマイナス要因もあったが、経常収支差額は255,798千円のプラスになった。施設寄付金等や資産処分差額などの特別収支を差引した結果、基本金繰入前当年度収支差額は263,673千円のプラスとなった。

・2019年度事業活動収支計算書概要

(円)

項目	2019年度	2018年度	2017年度	2016年度	算式
教育事業活動収入	3,604,042,394	3,358,303,570	3,053,116,762	2,902,086,895	-
教育事業活動支出	3,338,217,401	3,372,856,801	3,022,470,024	2,915,772,498	-
教育活動収支差額	265,824,993	△14,553,231	30,646,738	△13,685,603	1-2
教育活動外収入	24,443	23,346	23,689	3,149,521	-
教育活動外支出	10,050,858	6,069,045	6,368,363	2,206,506	-
経常収支差額	255,798,578	△20,599,930	24,302,064	△12,738,588	3+4-5
特別収支差額（集計）	7,875,106	△23,297,819	47,784,587	44,954,414	-
組入前当年度収支差額	263,673,684	△43,897,749	72,086,651	32,215,826	6+7
基本金組入額	△637,213,892	△201,843,199	△796,408,050	△614,168,081	-
当年度収支差額	△373,540,208	△245,740,948	△724,321,399	△581,952,255	8+9
前年度繰越収入差額	△2,578,623,942	△2,350,467,039	△1,626,145,640	△1,044,193,385	-
翌年度繰越収支差額	△2,942,866,630	△2,578,623,942	△2,350,467,039	△1,626,145,640	10+11

・正味資産の推移

(円)

	2019年度	2018年度	2017年度	2016年度
正味資産	12,635,278,559 (内現金預金総額 3,193,151,667)	12,371,604,875 (内現金預金総額 2,906,878,691)	12,415,502,624 (内現金預金産総額 2,771,591,140)	12,343,415,973 (内現金預金総額 2,723,025,512)
資産増加額	263,673,684	△43,897,749	72,086,651	32,215,826

・主な財務比率

項目	2019年度	2018年度	2017年度	2016年度	算式
経常収支差額比率	-7.0%	-0.6%	-0.8%	-0.4%	経常収支差額/ 経常収入
人件費比率	53.7%	55.7%	56.8%	56.6%	人件費/ 経常収入
教育研究経費比率	26.2%	30.7%	28.6%	29.4%	教育経費/ 経常収入
管理経費比率	12.6%	13.9%	13.6%	14.4%	管理経費/ 経常収入

以上